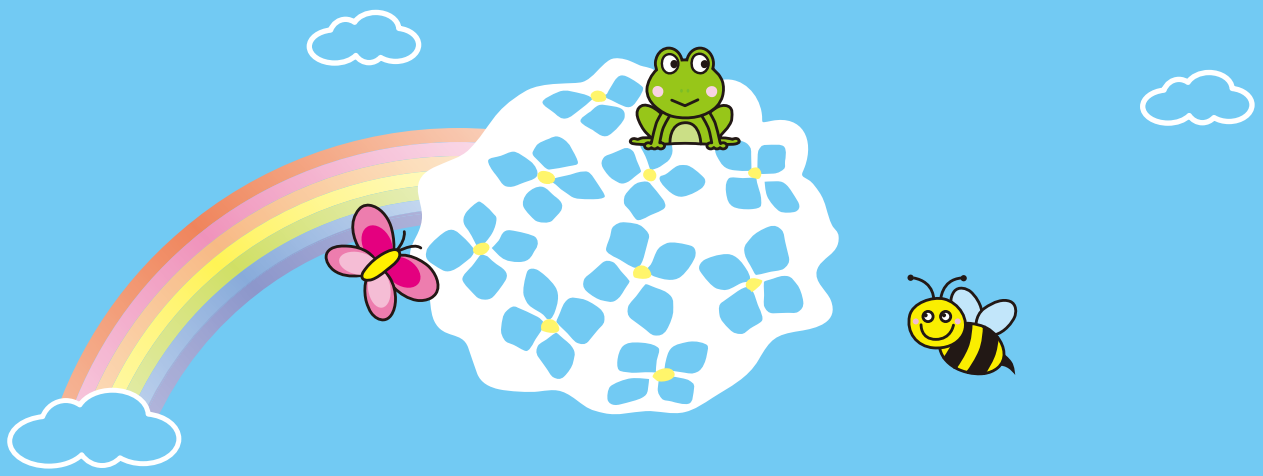
平成30年度

長崎大学病院
メディカル・ワークライフバランスセンター

あじさいプロジェクト
活動報告書



目　　次

はじめに …… 1

1.プロジェクトの概要と目的

①あじさいプロジェクトとは …… 2
②メディカル･ワークライフバランスセンターについて …… 2
③あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関 …… 2
④あじさいプロジェクトWebサイトからの発信 …… 3
⑤Facebookからの発信 …… 3
⑥病院イントラネットからの発信 …… 3
⑦あじさいプロジェクト通信(メールマガジン)からの発信 …… 3

2.両立支援活動

①キャリアサポート

1)キャリアコンサルティング …… 4
2)復職&リフレッシュトレーニング(全3回) …… 5~7
3)学生キャリア講習会(3年生) …… 8~10
4)キャリアアップセミナー …… 11
5)輝く卒業生インタビュー …… 12~13

②両立サポート

1)日帰り診療応援システム …… 14
2)長崎医師保育サポートシステム …… 14~16
3)イブニングシッターサービス …… 17
4)両立ハンドブック(3種類) …… 17
5)マタニティ白衣･パンツ貸出 …… 18

③長崎県内病院の取り組み

【長崎大学病院の取り組み】
1)医局長訪問 …… 19~20
2)長崎大学病院あじさい保育園 …… 21
【長崎大学の取り組み】
3)文教おもやい保育園 …… 21
【地域病院の取り組み】
4)ワークライフバランス推進員 …… 22~23
5)病院インタビュー　長崎県島原病院 …… 24~25
6)地域就労支援病院 …… 26~27
7)私たちのワークライフバランス実践術 …… 28

3.調査･研究

①平成30年度 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート …… 29
②平成30年度 医師の両立支援状況調査 …… 30~32
③平成30年度 医師の両立支援状況調査　二次調査 …… 33

4.広報活動

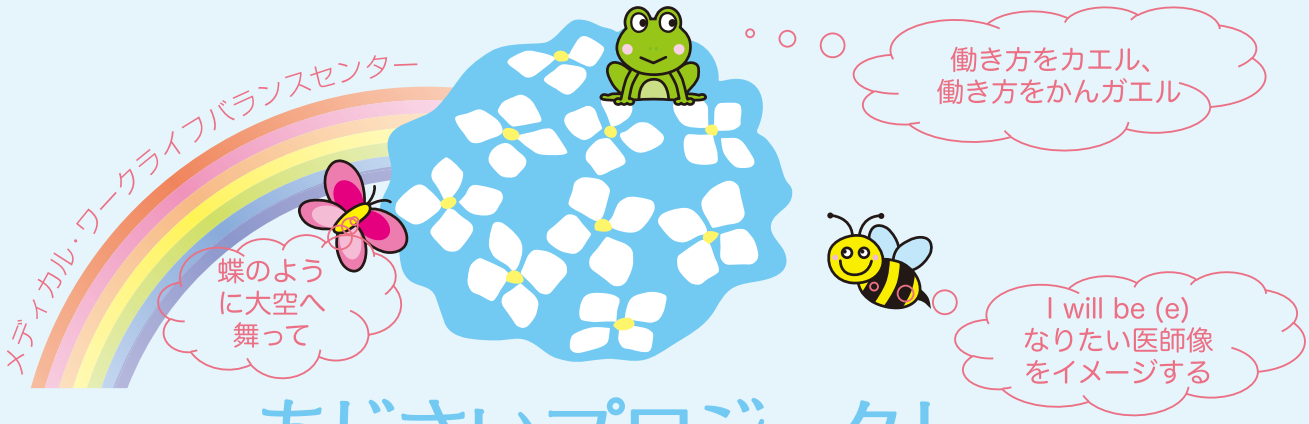
①講演 …… 34
②メディア掲載･出演 …… 35

5.委員会活動

①センター運営委員会 …… 36
②企画会議 …… 36
③長崎県女性医師等就労支援協議会 …… 36
④女性医師等キャリア支援連絡協議会 …… 36

6.その他

①参加･受講 …… 37
②施設見学 …… 37
③関連機関所属一覧 …… 37



あじさいプロジェクト
NAGASAKI AJISAI PROJECT

仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターを応援します！

キャリアサポート
自分らしく、キャリアを継続するために

- コンサルティング
- 復職＆リフレッシュトレーニング
- 講演会やセミナーなどの開催報告
- 女性医師ネットワークづくり
- 輝く卒業生インタビュー

両立サポート
育児、介護…ライフイベントを迎えても、
安心して働くために

- 長崎医師保育サポートシステム
- イブニングシッターサービス
- マタニティ白衣・パンツ貸出
- 両立ガイドブック
- 子育て家庭に役立つ情報 / 国の支援制度
- 長崎県の病児保育・病後児保育施設

長崎県内病院の取り組み
ワークライフバランス実現を目指しています！

- ワークライフバランス推進員
- 県内病院ワークライフバランス推進員メッセージ
- 長崎大学病院の取り組み
- 病院インタビュー
- 地域就労支援病院
- 私たちのワークライフバランス実践術

長崎大学病院は長崎県の委託をうけて、メディカル·ワークライフバランスセンターを設置し、長崎県内の医師が「働きやすさ」と「働きがい」を感じて医療に取り組める環境設備を常に考えています。センターが推進するのがあじさいプロジェクトです。

あじさいプロジェクトの活動は、ワークライフバランスの理念に基づいています。ワークライフバランスとは、充実したライフを得るために、ほどほどに働くという考えではなく、ワークとライフの相乗効果を狙ったものです。つまり、ライフで得られたスキル（例えば患者さんやメディカル·スタッフとの意思疎通を良くするコミュニケーションスキル）をワークに生かし、仕事の効率を上げて長時間労働を改善します。医師の「仕事と育児の両立」を図り、多様な就労形態で、子どもの成長に応じて徐々にステップアップできる仕組みづくりと、育児や介護等で時間制約のある女性および男性医師が、気兼ねすることなく働ける「お互いさま」の風土づくりで、キャリア継続できることを目指しています。

あじさいプロジェクト
NAGASAKI AJISAI PROJECT
〒852-8501 長崎市坂本1-7-1 ☎(095)819-7979
http://nagasaki-ajisai.jp

はじめに

国立大学法人　長崎大学　副学長
長崎大学ダイバーシティ推進センター　センター長·教授
長崎大学病院メディカル·ワークライフバランスセンター　センター長
伊東　昌子

開設から7年目を迎え、大学病院内では種々のサポートの利用者が増えてきましたし、県内の医療機関においても認知度が高まってきたことを実感します。振り返ると、設立当初には「医師にとってワークライフバランス(WLB)なんて言葉さえも存在しない」と言われたこともありましたが、働き方を見直す必要性の認識とともに、医療現場にこそWLBが重要であると考えられてきました。

今年度の最大の変化は、長崎県医師会と協働運営の「保育サポート事業」を、対象地域や機関を分担して、運営主体をセンターへ移管したことでしょう。そうしたことで、本システムの大学病院内、新·鳴滝塾所属の医療機関では認知度が上がり、利用希望者が増えました。さらに、県内の医療機関で、本システムの利用が困難な地域、たとえば離島などでも、保育サポーターがいればもっと安心して仕事ができるに違いないという副センター長の思いから、利用希望者がいる対象外地域の医療機関には個別に、ニーズ調査を行い、医療機関毎のシステム作りの導入サポートを始めています。業務が増えて嬉しい悲鳴もありますし、経費が十分でなく苦労もしていますが、このシステムを利用することで就労を可能にするだけでなく、出産前から抱いていた医師としての目標に向けて活躍していただけることを願っています。

引き続き、ご理解ご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

長崎大学病院メディカル·ワークライフバランスセンター　副センター長
南　貴子

今年度の一番嬉しいニュースは、長崎大学病院に次年度病児保育室が開設されると決定したことです。共働き医師の悲願とも言われてきた病児保育室は、2度目のワーキンググループで検討を重ね、とうとう実現化します。待ち望む医師の声がすでに聞こえてきています。長崎県内の基幹研修病院における病児保育室の保有率は九州内最低であり、他院での開設も推進していきたいと思います

子育てをしている時期にも、専門分野の臨床研修や興味のある分野の勉強·研究など、医師としてキャリアアップするための時間が持てるように、環境整備·サービスを充実していきたいと思います。

これからも、どうぞよろしくご指導·ご協力のほど、お願い申し上げます。

1．プロジェクトの概要と目的

1 あじさいプロジェクトとは

あじさいプロジェクトは、長崎県全域を対象に医師が仕事と生活の両立を実現するための支援とその環境整備を推進するプロジェクトです。 メディカル･ワークライフバランスセンターが中心となり、関係機関と連携してプロジェクトを進めています。主な取り組みであるキャリアサポートでは、医師としてのキャリアの継続･復帰支援のためのコンサルティング、復職トレーニングのほか、キャリアアップを目指した企画を行っています。

また、Webサイトでさまざまな支援情報、イベント情報、ロールモデルの紹介記事などを発信。そのほか、県内のより多くの医療機関で仕事と生活の両立が可能な就労環境を整備していただくように働きかけています。

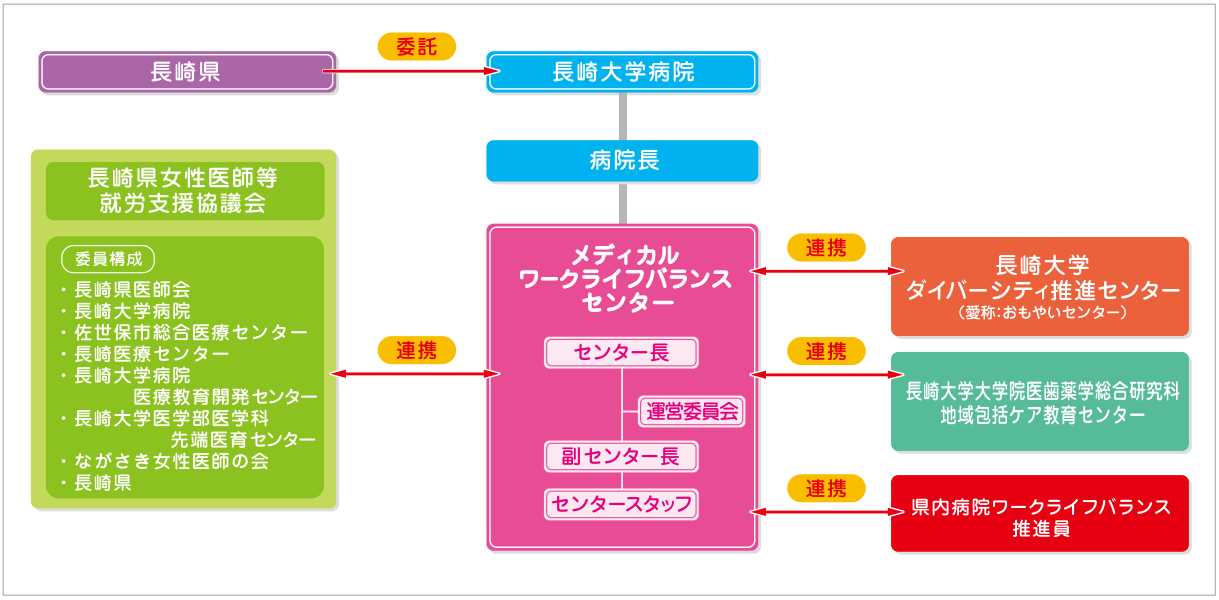
2 メディカル･ワークライフバランスセンターについて

平成24年4月に長崎大学病院内にメディカル･ワークライフバランスセンターが開設されました。

長崎大学病院の「医療人」を対象に、職場復帰･就労維持支援、仕事と生活の両立の可能な環境整備、および次世代の医療を担う医療人の育成支援に努めています。その実現には、組織としての取り組みと同時に、各医療人の意識変革も重要です。

また、あじさいプロジェクトの遂行には、長崎県･長崎大学ダイバーシティ推進センター･長崎県医師会･ながさき女性医師の会と連携しながら、長崎県内医療機関で勤務する医師を対象に働きやすい職場、やりがいを持ってイキイキと活躍できる医療現場を目指し活動しています。

3 あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関



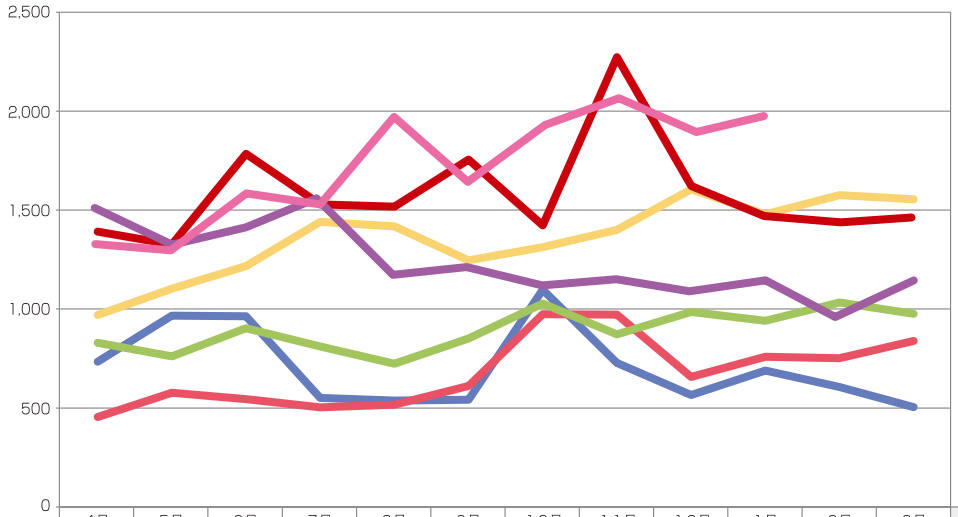
4 あじさいプロジェクトWebサイトからの発信

長崎県内で働く医師･長崎大学病院に勤務する医療人にとって、働きやすい環境整備を推進するため、ワークライフバランス施策に基づいた職場づくりを目指すための情報を発信しています。
情報発信の3つの柱は、「キャリアサポート」「両立サポート」「長崎県内病院の取り組み」のテーマ別にアクセスすることができます。

今年度は、「長崎医師保育サポートシステム」のコンテンツ等を追加しました。随時内容の充実に努めてまいりますので、ぜひ、ご覧ください。

Webサイト

あじさいプロジェクトWebサイトアクセス数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成24年度	734	967	963	551	538	542	1,097	728	566	689	606	504	707
平成25年度	454	577	545	503	517	611	974	972	657	759	752	839	680
平成26年度	829	761	903	811	724	851	1,028	872	985	941	1,033	976	893
平成27年度	970	1,103	1,217	1,440	1,417	1,246	1,313	1,400	1,604	1,479	1,575	1,555	1,360
平成28年度	1,414	1,326	1,784	1,529	1,517	1,755	1,423	2,272	1,621	1,471	1,441	1,462	1,585
平成29年度	1,501	1,327	1,412	1,552	1,178	1,204	1,118	1,153	1,087	1,182	967	1,185	1,239
平成30年度	1,394	1,369	1,594	1,523	1,922	1,665	1,932	2,076	1,843	1,970			1,729

過去最高！

平成31年2月1日時点

5 Facebookからの発信

「いいね」や「シェア」の
応援ありがとうございます。

Facebook

6 病院イントラネットからの発信

長崎大学病院のイントラネットに、Webサイトを公開しています。

7 あじさいプロジェクト通信（メールマガジン）からの発信

読者約1,035名へ、月1回メールマガジンを発信しています。イベント開催のお知らせや活動報告、ワークライフバランス実現への施策などを紹介しています。

メールマガジン

2.両立支援活動

1 キャリアサポート

自分らしくキャリアを継続するために、ライフステージに応じた働き方を一緒に考えていきます。

1）キャリアコンサルティング

妊娠･子育て･介護などのライフイベントにより、医師としてのキャリア継続に不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方、ひとり親の方へ、キャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

対象は長崎大学病院で勤務する医師をはじめとする長崎県内の医師、医学部学生、大学病院職員等のみなさまです。

【相談業務】　平成31年2月1日時点

平成30年度相談数　75件

（内訳）

長大病院　43件
県内病院　19件
その他　13件（休職･離職者･行政･他大学･各県医師会･報道機関等）

【申し込み方法】

あじさいプロジェクトwebサイトのお問い合わせ･お申し込みフォームをご利用いただくか、センターへ直接お電話ください。

後日、窓口担当からご連絡し、担当コーディネーターと面談の日程調整を行います。

面談後、ご自身に合ったキャリアプランの作成をお手伝いします。

※お子さんの同伴可能です。

【ライフステージ別にメディカル･ワークライフバランスセンターがお手伝いできること】

２）復職&リフレッシュトレーニング（全3回）

育児･介護等で休職･離職中の医師に医療現場との気持ちの距離を縮めてスムーズな復職を促すプログラムです。就労中の方も、参加できます。

トレーニング終了後に行う「ママドクターの意見交換会」では、子育て環境や復職時のサポート体制などを情報共有しています。
★パパの参加も歓迎です!

知識のアップデートや子育ての先輩と新米ママドクターの交流の場としてお気軽にお越しください。

トレーニングのDVDを自宅で視聴希望の方は、貸し出します。

【メディカル･ワークライフバランスセンター　復職&リフレッシュトレーニング　DVD貸出一覧】

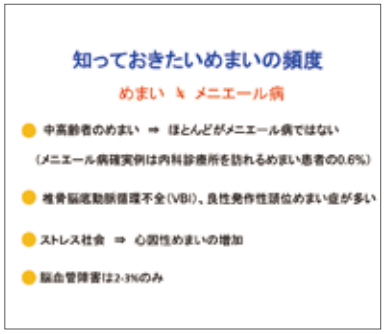
※貸出を希望される【NO】をセンターへお知らせください。

タイトル	講　師	貸出NO
急変時対応（2013年度）	山下　和範　先生	4
急変対応の基礎-BLSと初期評価-（2014年度）	山下　和範　先生	13
急変時の対応～BLSと基本的な考え方～（2015年度）	山下　和範　先生	17
心肺蘇生の基本（2017年度）	山下　和範　先生	23
急性腹症	井上　悠介　先生	5
腹痛の画像診断～CT画像を中心に～	林　秀行　先生	18
頭部単純CTとMRIの読み方	森川　実　先生	6
胸部単純エックス線写真	林　秀行　先生	1
胸部単純X線写真読影の基本～まずは異常に気づきましょう～	島本　綾　先生	24
乳がん～先生、胸にしこりがあるんですけど～	久芳 さやか　先生	26
消化器内視鏡診療の最前線	中鋪　卓　先生	20
心電図の知識	土居　寿志　先生	7
だれでも遭遇する心房細動治療のこれだけは ～残念な経過にならないために最小限気をつけること～	荒川　修司　先生	15
降圧薬の使い分け	恒任　章　先生	19
急性冠症候群～見逃してはいけない胸痛～	米倉　剛　先生	27 配布資料有
「コメディカル以上、専門医以下」で見逃さない、脳卒中	立石　洋平　先生	14 DVD無 配布資料有
咳の鑑別・アスピリン喘息	福島　千鶴　先生	2
食物依存性運動誘発アナフィラキシー	河野　哲也　先生	8
古くて新しい感染症～デング・NTM・結核・SFTS etc.～	神白 麻衣子　先生	16
熱と咳のプライマリケア	中道　聖子　先生	21
抗菌薬・抗ウイルス薬の使い方	森永　芳智　先生	12
CKD（慢性腎臓病）って何？	浦松　正　先生	9
最近の糖尿病薬、どう使う？	阿比留 教生　先生	11
栄養管理のABC	花田　浩和　先生	3
これは湿疹？蕁麻疹？それとも薬疹？～重症薬疹を見逃さないために～	富村　沙織　先生	22
認知症は薬で治るか？	黒滝　直弘　先生	10
めまい～それほど難しくないめまい患者の診方～	木原　千春　先生	25

第1回「めまい～それほど難しくないめまい患者の診方～」 DVD 貸出NO.25

日　時：平成30年6月25日(月)14:00～15:15
講　師：長崎大学病院 耳鼻咽喉科･頭頸部外科　木原 千春 先生
場　所：長崎大学病院 多目的研修室
参加6名：院内3名、院外1名、育休中2名(初参加2名)

木原 千春 先生

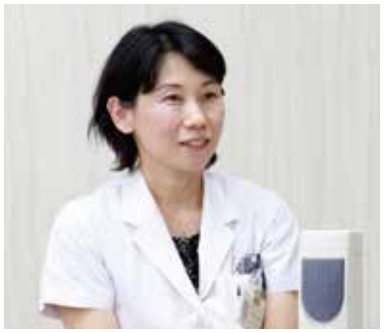


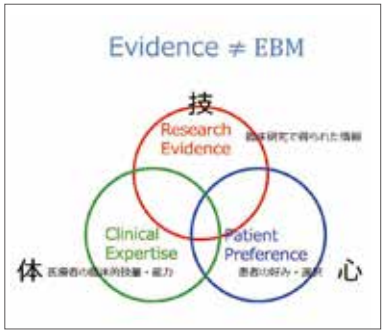
講義時のスライド(一部)

ふらふら･ふわふわ･ぐるぐる…といった症状を訴える患者さんをどのように診察していくかを眼振の動画も供覧して教えていただきました。頻度は少ないが、危険な「中枢性めまい」を疑ったら、MRI検査をすること。よく耳にする「メニエール病」は、実際には多くないこと。一番頻度が多い「良性発作性頭位めまい症」や、「椎骨脳底動脈循環不全」についても、詳しく教えていただきました。

第2回「乳がん～先生、胸にしこりがあるんですけど～」 DVD 貸出NO.26

日　時：平成30年9月10日(月)15:00～16:15
講　師：長崎大学病院 乳腺･内分泌外科　久芳 さやか 先生
場　所：長崎大学病院 多目的研修室
参加5名：院内2名、院外2名、休職中1名(初参加4名)


久芳 さやか 先生

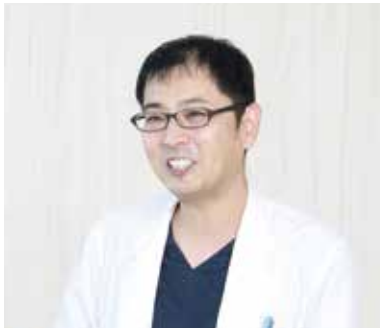


講義時のスライド(一部)

乳がんの治療法は複数あり、その選択については、患者さんに正しい知識を理解したうえでの判断をしてもらう、医師もその選択に納得することが必要だと話されました。20代、40代、70代の患者さんでは、生活背景が異なり、優先したい希望が異なるため、個々の患者さんに寄り添った治療を行う必要があると話されました。

第3回「急性冠症候群～見逃してはいけない胸痛～」 DVD 貸出NO.27

日　時：平成30年11月5日(月)15:00～16:15
講　師：長崎大学病院 循環器内科　米倉 剛 先生
場　所：長崎大学病院 多目的研修室
参加9名：大学院生1名、院外1名、育休中4名、休職中3名(初参加2名)


米倉 剛 先生

講義時のスライド(一部)

診断のために、胸痛の特徴、心電図をみるときの注意点は、①まずST上昇の有無を確認、②キャリブレーションの確認、とのことです。短時間で結果のでる心筋バイオマーカーは有用であること、胸痛発症からの時間により治療の選択が異なることなどを教えていただきました。また、植込型補助人工心臓やTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)の最新の治療の映像を供覧しました。

参加者の声　（託児利用：全3回延べ8名）

·理解できるか不安でしたが、無理のない内容で楽しく受講できました。
·育休中で、育児·家事中心の生活だが、復職に向けて気持ちの面でもいい機会になった。
·治療の目的、患者さんの思い、説明の際に注意すべきことなど、改めて考える良い機会になりました。がん治療は専門外ですが、すべての病気に通じることだと思いました。
·胸痛の患者さんに対する鑑別診断、ファーストタッチの際にするべき検査など再確認することができ、臨床に復帰する前に受講できて良かったです。

「ママドクターの意見交換会」

体験を語り合い感情を共有することで、働き続けられる安心感を得て、モチベーションを高めていく機会になりました。

ママドクター意見交換会

託児室の様子

お迎えの様子

新米ママドクターの悩み（抜粋）

·出産·育児により焦りを感じるが、子どもの年齢と専門医取得時期のベストなタイミングを模索している。
·仕事中心にすると子どもに対して申し訳ないと感じるので、バランスの取り方が難しい。
·ワンオペ育児になりそう。
·当直·日直についてパートナーとのスケジュール調整がうまくできるか。

子育ての先輩医師から経験に基づいたアドバイス（抜粋）

·保育園の時期は土曜日も預けられて、（仕事や勉強に専念でき）楽だった。
·高校生になると進学の問題が出てくる。
·子育てにお金がかかるので貯金も大事。

他にも、お子さんの病気時の対応、シッターや保育サポーターの情報、学会託児の状況など、活発な情報交換が行われました。

３）学生キャリア講習会（3年生）

「ワークライフバランス」について、学生講義を担当しました。1時限から6時限までの丸一日をかけて、「医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方を学ぶ」ことを目的として取り組みました。

日　時：平成30年10月5日（金）8:50～16:20
長崎大学医学部3年生（男性95名、女性31名 合計126名）の「医と社会」教育の一環で実施。

講義風景

伊東 昌子 センター長

「ワークライフバランスとダイバーシティ」

ライフイベントがあっても、仕事を継続していくためのワークライフバランスの考え方、ひとりひとりの価値観を尊重し、能力を生かすダイバーシティマネジメント、そして、それを阻害する無意識の偏見をなくすマインドセットについて話しました。さらに、長崎大学には「LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの総称。）」について学べる機会や相談できる部署があることの紹介、医師として患者さんと向き合う前に理解を深めておくことなどを話しました。

長崎県福祉保健部福祉保健課 医療監　藤田 利枝 先生

全国保健所長会が制作した公衆衛生医師募集のパンフレットを配布し、仕事内容の紹介がありました。いろんな経歴から行政医師を目指すことができること（藤田先生は外科医から転身）、臨床経験は役に立つことなどを話されました。

長崎県医師会 常任理事　瀬戸 牧子 先生

日本医師会の「ドクタラーゼ別冊～医師会のことをもっとよく知ってもらうために～」の配布と医師会活動の紹介がありました。

グループ討論

仕事と育児の両立を目指す共働き夫婦が、問題に直面した時にどのように解決していくかを、グループに分かれて討論。

ロールプレイングで発表

4つの事例毎に、1グループがロールプレイングで発表し、夫婦や上司などの立場にたったセリフが考えられていて楽しい演出でした。他のグループは相違点を発表しました。

各診療科のワークライフバランス推進員を務める先輩医師が、学生の発表に対するコメントや、「診療科をどうやって選んだか」「結婚のタイミングは」などの質問に、丁寧に答えてくださいました。

＜先輩医師の感想（抜粋）＞

腎臓内科　牟田 久美子 先生

夫や両親などの家族、上司と何度も話し合いながら、自分や家族にとって正解となる選択肢を見つけていく必要があると思います。他の先生方のご意見も参考になり、「家族一緒に、をまず考えて行動している。」というお話が印象に残りました。

麻酔科　吉﨑 真依 先生

「育児しながらでもこんなに働けるんだよ!」と言いたいところですが、それは周りの協力があってこそです。自分の権利も大事ですが、周りとの「和」も考えながら真摯に仕事に向き合いたいと改めて思いました。

総合診療科　依田 彩文 先生

最近は「女性医師の社会進出･キャリアアップを叶える」という視点での学生の発表が多く、この十数年の確実な変化を感じ、とても嬉しく頼もしく拝見しています。

形成外科　千住 千佳子 先生

家庭を持つと女性がフルで働くのはどうしても難しくなります。しかし、医局内はまだまだ医師不足で、他の先生にしわ寄せがいっているのも事実。いつも周りに感謝しつつ、仕事と家庭のバランスを取っていけたらいいなと思います。

ロールモデル医師の講演①
循環器内科 医員　泉田 誠也 先生

パートナーは、同病院の内科医ですが、現在第3子の出産間近ということで、仕事と家庭生活の調整を模索されている現状を話されました。夫婦の仕事と生活を時間軸で示した経歴、性格や考え方、収入、将来の展望などについて示し、夫婦でもかなりの相違点はあるが、よく話し合って打開策を見出したいというお話でした。学生にとっては、グループワークで考えた事例以上に、生々しい問題を感じられたと思います。

ロールモデル医師の講演②
消化器内科 助教　田渕 真惟子 先生

仕事をしっかりしたい、という思いの田渕先生が、子育てを夫には頼らず、実家や保育サポーターさん、職場の助けを借りながら、日々邁進されているお話でした。「もっともっとキャリアアップしたい、仕事も家庭も自分で掴みとる!」という前向きな気持ちが学生にも届いたと思います。

特別講演「最前線のワークライフバランスリテラシー」
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーションスクール
設置準備担当 教授　産婦人科医·医学博士　吉田 穂波 先生

人に助けを求める力=「受援力」についての講義は、目からウロコという学生も多く、今後社会に出た時に役立つお話でした。また、夫婦のどちらも「Win-Winの関係」で、キャリアと家庭生活を築くことが大事であるとの解釈は、5人の子育てをしながら夫婦で海外留学を行い、お互いのやりたいことも尊重する先生の実体験を聞いた後には、非常に納得できる内容でした。

講義後アンケートの「仕事と生活の両立を図るために必要なものは何か」の設問では、1位：受援力、人に頼る　2位：協力、助け合い　3位：コミュニケーション（人とのつながり）という結果になり、吉田先生の「受援力」というキーワードが多くの学生の心に響いたことがわかりました。

<学生の感想>

·将来起こりうる事態のことが多く、考えさせるようなことがたくさんあった。（男性）
·卒後のことなんてまだまだの感じがしていたが、数年後に迫ってきていることを改めて感じて焦ったが、今日の話を聞いて不安もあるけど将来が楽しみという気持ちがでてきました。（女性）
·自分は誰かに相談するということがあまり得意ではないので、今後相談できるようにしていきたいです。（男性）
·色んな先生方のお話を聞けて自分の中の働き方のケースを増やせた。実際現場の先生方も答えが見つからない働き方の現状を、どうにか変えていけないものかと思う。男性医師の話をもっと聞きたい。（女性）
·普段の座学と違って人生観がとても変わりました。（男性）

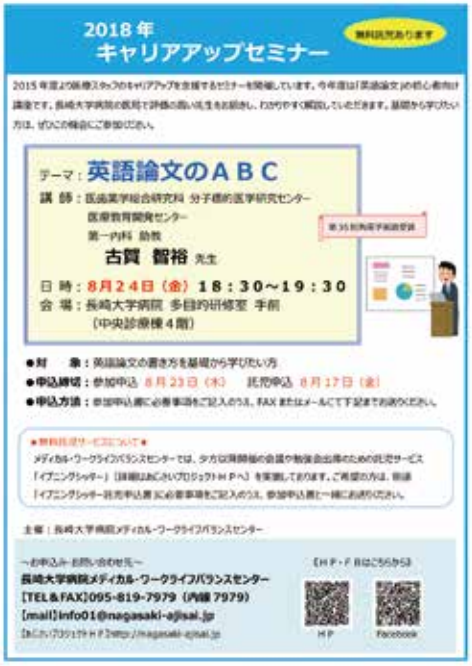
医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート調査結果は、本誌P29参照

４）キャリアアップセミナー

テーマについて基礎から学べる初心者向け講座です。長崎大学病院の医局で評価の高い先生をお招きして、わかりやすく解説していただきました。

「英語論文のABC」 DVD 貸出NO.7 （注）スライド除く、配布資料有

日　時：平成30年8月24日（金）18:30～19:30
講　師：医歯薬学総合研究科 分子標的医学研究センター
　　医療教育開発センター　第一内科　助教　古賀 智裕 先生
場　所：長崎大学病院 多目的研修室
参加12名：院内9名、院外3名



ご自身の120編以上の論文作成経験からのコツと、実際に使用しているテンプレートを提示して、わかりやすく教えていただきました。「”自分の研究成果や貴重な症例報告を、世界に発信しよう!”という気持ちを持って、考え過ぎず、とにかく書くこと!」と話されました。英語については、Google翻訳をうまく利用することや、あとから校正してもらえるので大丈夫だとアドバイスされました。参加者の皆さんは、学会発表から論文作成へのハードルが、間違いなく下がったと思います。

講師：古賀 智裕 先生

講義風景

参加者の声（託児利用：１名）

・漠然と理解していた論文の書き方がよくわかった。系統立ててスライド作成されており理解しやすかった。若い先生に聞いてもらいたい内容だった。
・Google翻訳の有用性がわかって良かった。同時に、やはりまず書いてしまうことが大切だと改めて認識した。
・書き始めよう!という気持ちになれた。Google翻訳使ってみます。

５）輝く卒業生インタビュー

輝く卒業生インタビューラインアップ

※インタビュー全文は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。

VOL.1　平成27年6月インタビュー

瀧原　圭子　先生
·大阪大学　副学長·保健センター長
·大阪大学大学院医学系研究科
　循環器内科学教授（兼任）

VOL.2　平成27年8月インタビュー

黒﨑　伸子　先生
·黒﨑医院院長
·ながさき女性医師の会　副会長
·国境なき医師団日本　監事
·日本BPW(Business &
Professional Women)連合会　監事
·長崎大学大学院国際健康開発研究科
非常勤講師

VOL.3　平成27年10月インタビュー

鈴木　眞理　先生
·政策研究大学院大学
保健管理センター　教授

VOL.4　平成27年11月インタビュー

瀬戸　牧子　先生
·長崎県医師会　常任理事
·ながさき女性医師の会　会長
·社会医療法人春回会
長崎北病院　副院長
·長崎医療技術専門学校　非常勤講師

VOL.5　平成28年1月インタビュー

有井　悦子　先生
·有井小児科医院院長
·京都造形芸術大学芸術学部
子ども芸術学科　教授
·京都小児科医会理事
·京都市学校医会顧問
·京都府保険医協会理事
·NPO法人子どもセンターののさん　理事

VOL.6　平成28年4月インタビュー

福田　友子　先生
·医療法人　ふくだこどもクリニック院長

VOL.7　平成28年6月インタビュー

濱田　千江子　先生
·順天堂大学腎臓内科学講座　准教授
·順天堂大学男女共同参画推進室
女性就労修学環境支援部門　委員
·日本成人病学会·日本透析医学会·
日本腎臓学会　評議員

VOL.8　平成28年10月インタビュー

芦刈　伊世子　先生
·地域連携型認知症疾患医療センター
センター長
·あしかりクリニック　院長
·東京都精神神経科診療所協会
副会長
·日本綜合医学会　副会長

VOL.9　平成29年9月インタビュー

荒木　貴子　先生
·ミネソタ大学 糖尿病·内分泌代謝部門
Assistant Professor

VOL.10　平成29年10月インタビュー

髙見　裕子　先生
·九州医療センター肝臓病センター
肝胆膵外科科長

NEW

VOL.11　平成30年9月インタビュー

北村　理子　先生
·大村市医師会　理事
·北村理子クリニック皮ふ形成外科　院長
·大村看護高等専修学校　非常勤講師

【輝く卒業生インタビューvol.11】 平成30年9月インタビュー

北村　理子 先生

·大村市医師会　理事
·北村理子クリニック皮ふ形成外科　院長
·大村看護高等専修学校　非常勤講師

<略歴>

2001年3月	長崎大学医学部卒業
同　4月	形成外科に入局し同附属病院で研修
2002年	国立長崎医療センター(現 国立病院機構長崎医療センター)
2004年	周南記念病院
2005年	大分厚生連鶴見病院
2006年	国立病院機構長崎医療センター、結婚
2009年	開業前の修行のため関西へ単身赴任、カリスクリニック(大阪)
2011年	鈴木形成外科(京都)
2012年9月～	北村理子クリニック皮ふ形成外科　開院
2016年～	大村市医師会理事(現在2期目)
2017年6月	第1子出産

●医師を志した時期や理由をお聞かせください。

子どもの時から5歳上の兄と一緒に、パソコンや電気回路などをいじって遊んでいて、自然と理系を目指していました。高校3年生のとき、ふと進路を変えました。「ある分野を追究するために集中してずっと研究室にいる姿は私には似合わないかもしれない、人と話すことが好きなので、人と接する仕事がしたい」と考え直して、それなら理系では医師だろうと、医学部を受験しました。

●これからやりたいこと、今後の予定や夢などはございますか。

今は子育てが主軸になっていますので、まずは子どもを健康に育てたいです。
仕事については、外科医として目と手が動く限りは手術をたくさん続けていきたいですね。そしてライフワークと思っている赤ちゃんのあざのレーザー治療(保険適用)です。安全で効果の高いレーザー治療について、お悩みの患者さん、お母さんたちにもっと情報を知っていただきたいと思っています。開業前にご縁があって勤務させていただいた京都の鈴木形成外科では、レーザー治療をいち早く取り入れられていました。そこで、あざは放っておいても自然には消えないものが多く、より早い時期に治療を開始することできれいになって、喜んでもらえるということを知り、私の一生の仕事として続けていきたいと思いました。長崎県内全域や大学病院からも患者さんを紹介していただいており、県外からもインターネットで調べて多くの患者さんが来院されます。

●女性医師、若い医師へのメッセージをお願いいたします。

医師は、やりがいのある仕事なので、仕事をしないことはもったいないと思います。スタッフには、「私たちの仕事は、間近で患者さんの病気や怪我が良くなる経過に立ち合い、喜んでもらって、ありがとうと言ってもらえて。患者さんと幸せを分かち合い、そしてお金までいただける。こんなに恵まれた仕事はない。良い仕事をさせてもらっているのだから、楽しみましょう。また、患者さん、一緒に働くスタッフ、支えてくれる家族に感謝する気持ちを忘れないでね。」と、折に触れて話しています。
私が若い頃は、「女性の先生が手術するの?」と、不安そうに言われたこともありましたが、近頃は「女性の先生で良かった!」と言われることの方が多いと感じます。女性というのも、むしろ強みになると思いますよ。

2 両立サポート

育児や介護などのライフイベントを迎えても、安心して働けるようサポートしています。

1）日帰り診療応援システム

子育て中の女性医師等を派遣し、長崎県内の離島･へき地の外来診療を支援するシステムです。

ヘリコプター（長崎離島医師搬送システム　通称NIMAS）等を利用することで日帰りでの外勤が可能となり、「長崎医師保育サポートシステム」と連携してバックアップすることで、勤務時間に制約のある子育て中の女性医師でも、フライトが可能な日の出から日没まで安心して診療に従事できます。

専門外来状況（意向）調査

1.調査の目的　実際に派遣手続を進められる診療所を把握し、希望を確認するため。
2.実　施　月　平成30年6月
3.調 査 対 象　へき地診療所を所管する県内の10市町
4.結　　果　配付･回答数（回答率）:配付10市町　回答10市町（100%）
　　平成30年度の派遣希望は無し。

2）長崎医師保育サポートシステム

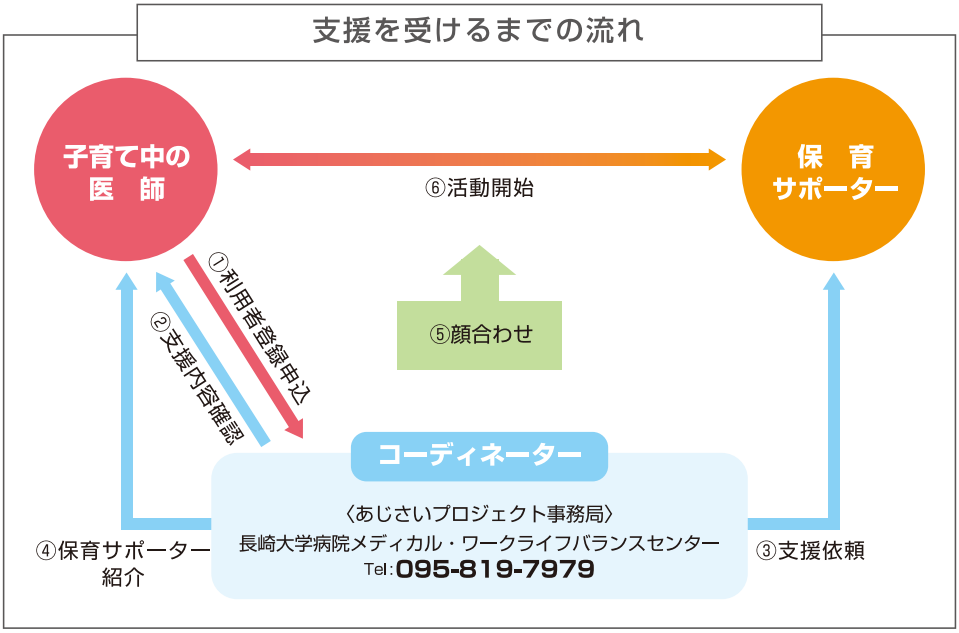
長崎県の補助により、平成26年4月より長崎県医師会と長崎大学病院･メディカル･ワークライフバランスセンターが協働で「長崎県医師会保育サポートシステム」を設置し、運営してきましたが、平成30年4月よりシステムの運営主体･事務局をセンターに移管し、「長崎医師保育サポートシステム」として新たにスタートしました。

長崎県の受託事業「あじさいプロジェクト」の一環としてセンターが運営を行い、長崎県医師会は協働推進団体として連携して活動を行っています。

県内の子育て中の医師が仕事と育児を両立できるように、育児支援を必要とする医師と保育サポーター（子育ての援助ができる方）を、コーディネーターがマッチングを行うことで、医師の仕事と子育ての両立や就労継続を支援することが目的です。

対象は長崎市、西海市、時津町、長与町、諫早市、大村市に居住または働いている医師（勤務医･開業医･研修医など）です。

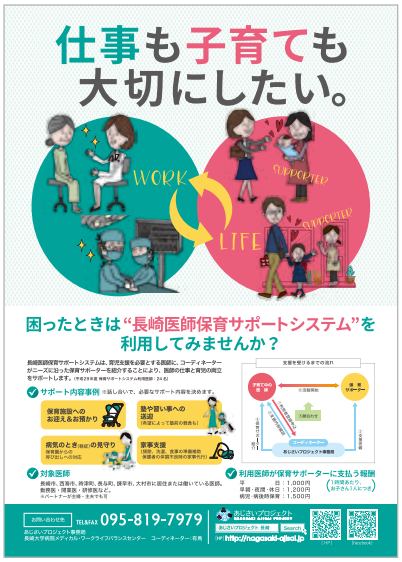
※本誌P16参照　地域病院における長崎医師保育サポートシステムも展開中。



＜活動実績＞

平成31年2月1日時点

	医 師	保育サポーター
平成30年度新規登録数	7名	27名
登録総数	50名	135名
うち平成30年度利用･活動実数	19名	26名
資料請求数	12名	63名



＜主な活動内容＞

◎サポートの頻度は、少数回から週6日、不定期など幅広くご利用いただきました。

◎サポート時間は、平均で1回2時間前後が多いです。

- ･医師宅やサポーター宅での保育
- ･保育園や幼稚園⇔医師宅の送迎
- ･習い事や塾⇔医師宅の送迎
- ･保育園から勤務先内託児室への送り
- ･病気のお子さんの医師宅での保育　など

＋ 保育と合わせて家事支援

利用医師の声

･仕事に専念する時間が増え、安心して子どもを預けて、資格試験の勉強や学会参加ができるようになりました。

･週1回の利用ですが、カンファレンスや勉強会に参加でき、診療するをするうえでも非常に役立っています。

･パートナーや保育園のほかに頼れる先ができて、安心感が持てました。

･帰宅して育児や家事に追われ、疲れてできなかった論文の準備に時間をとれるようになりました。

活動保育サポーターの声

･現在1歳7ヵ月のお子さんのサポートをしています。最初の依頼は1年前、人見知りが始まった頃で泣かれましたが、久しぶりの赤ちゃんは可愛くてあっという間の1時間でした。しばらく間が空き、2か月前から保育園のお迎え（週1～2回）のサポートが始まりました。成長したお子さんは、私のお迎えを笑顔で待っていてくれて、自宅まで数分の道のりですが、私は、“ばーば”の気分で楽しんでいます。道中の安全には十分気を配り、慌てずゆっくりを心がけています。子育てが終わり仕事も辞めた今、この様な形でお手伝いが出来る事を嬉しく思いながら、活動させていただいています。

＜保育サポーターに利用医師が支払う報酬（標準単価）＞　※双方の話し合いで決めます。

		1時間単価（税込）／1人
一般保育 月～金	9:00～18:00	1,000円
	上記以外	1,200円
一般保育　土日祝		1,200円
病児･病後児保育		一般保育単価+500円

	1回当たり単価（税込）／1人
お泊り（土日祝も同額）	10,000円
飲食（保育サポーターが用意した場合。）	500円

※2人目からは半額

※病児･病後児保育の場合は半額としない

※当日のキャンセルは予定報酬の半額を医師が負担

保育サポーター説明会･研修会

保育サポーターとして活動するために、保育サポーター研修会を1回以上受講していただきます。

日　時：平成30年9月6日(木)14:00～16:30
場　所：長崎大学医学部 良順会館1階 専斎ホール
参加者：36名(保育サポーター登録検討中24名、登録済12名)

<説明会>
長崎大学病院メディカル･ワークライフバランスセンター
副センター長　南 貴子

長崎県医師会 常任理事　瀬戸 牧子 先生

<研修会>
日本赤十字社長崎県支部 参事　樺山 智子 氏
すくすく支援セミナー～赤十字幼児安全法～

研修会風景

保育サポータースキルアップ研修会･情報交換会(登録済みの保育サポーター対象)

もしもの事故に備えて、サポート中に役立つ知識の習得･スキルアアップのための研修会と、情報交換会を実施しました。

テーマ:「乳幼児の一次救命」

日　時：平成30年10月22日(月)
　　14:00～15:30
場　所：長崎大学病院 多目的指導室
講　師：日本赤十字社長崎県支部
　　参事　樺山 智子 氏
参加者：23名

AEDを使用した
「子どもの一次救命処置」

保育サポーター情報交換会

地域病院における長崎医師保育サポートシステム

現行の長崎医師保育サポートシステムの運用で、コーディネーターの派遣が難しい地域において、システムの導入を推奨･支援する取り組みを進めています。システムを導入した地域病院は協働推進病院として連携して活動し、センターのコーディネーターと協働推進病院に配置された事務協力担当者が、医師のニーズに応じた育児支援ができる保育サポーターの募集や紹介を行います。システムを導入することで、医師が仕事と育児を両立しながら就労継続できる病院毎の体制づくりを目指します。

平成30年度導入決定病院:佐世保共済病院

３）イブニングシッターサービス

大学病院内で夕方から実施される会議･勉強会等への参加を可能にするために、託児の手配を行います。

経験豊富な保育サポーターの方が保育にあたり、お子さんの月齢や託児数によって十分な人数を手配いたしますので、大切なお子さんを安心して預けることができます。長崎大学病院職員および関連病院に所属する医師が対象となっており、無料で実施しています。大学院セミナー（坂本地区開催）参加者もご利用いただけます。

これまで、医師（長崎大学病院内･院外）、歯科医師、看護師、薬剤師、研究員、大学院生、事務職員などの方々にご利用いただきました。

＜イブニングシッター利用者状況＞

平成30年4月1日～平成31年2月1日時点

平成30年度	実施数
利用者数（延べ）	9名
託児数（延べ）	13名

＜実施概要＞

･実施日時：月・火・木・金曜
（水曜・土日祝・年末年始を除く 17:30～20:30）

･託児場所：長崎大学病院内　キッズルーム

･対 象 児：乳児(3か月以上)～小学生まで　※1日の定員:6名

【託児場所】

勉強机や
簡易ベッドの
貸し出しも
行っています。

保育サポーターさんは
お子さんの月齢に合わせて
おもちゃを準備します。

利用者の声

･月１回行われる院内の統計勉強会に参加するため、イブニングシッターサービスの利用を始めました。お弁当を持参すれば食べさせてくれるので、保育園の延長保育を利用するよりも助かります。シッターさんがやさしく対応してくださり、おもちゃも色々あるので子どもは楽しいようです。帰るのを嫌がって大変でした。今後も利用させてください。

４）両立ハンドブック（3種類）

あじさいプロジェクトホームページのお問い合わせ･お申し込みフォームから資料請求ください。

出産育児のイロハ
（長崎大学病院職員限定）

介護準備のABC
～働くあなたのために～
（長崎大学職員と長崎県内病院限定）

両立応援HAND BOOK
～ママドクターの復職のために～
（長崎県内の女性医師限定）

４）マタニティ白衣・パンツ貸出

長崎大学病院内で働く医療に従事する方と、県内医療機関で働く医師がご利用になれます。
これまでに、医師46名を含む計66名にご利用いただきました。長崎大学病院内だけではなく、県内病院で働く医師の利用も増え、県北地域5病院6名、県央地域１病院3名、そして、平成30年度は初めて、対馬地域で勤務する医師へ貸し出ししました。（平成３１年2月１日時点）

レンタルの流れ

センターへご連絡いただき、申込書をメールでご提出ください。
→在庫を確認し、貸出可否をメール等でご連絡します。

＜長崎大学病院で働く方の場合＞
①センターで試着後、「2着セット」をその場で受け取る。
②利用期間終了後、「レンタル終了」と明記して、院内便で「2着セット」をセンターへ返却する。

＜長崎県内医療機関で働く医師の方の場合＞
①「2着セット」と、「梱包袋」、「返送用の着払伝票」を宅配便で受け取る。
②利用期間終了後、「梱包袋」に「返送用の着払伝票」を貼り、クリーニング済みの「2着セット」を入れて、センターへ返却する。

マタニティ白衣・パンツの特徴

白衣の左上腕とパンツの左前上部に刺繍であじさいの花と「NAGASAKI AJISAI PROJECT」の文字入りです。

＜マタニティ白衣＞
ダブル仕立てのコートタイプでお腹の膨らみが目立ちません。

＜マタニティパンツ＞
白色と紺色を準備しています。
お腹周りは柔らかいリブ生地です。サイドのボタンでウエストのサイズを調節することができます。

妊娠30週目

利用者の声（マタニティパンツ）

・初めての妊娠で分からないことが多い中、先輩医師にマタニティパンツのレンタルを教えていただきました。離島という遠方にも関わらず、ご対応いただいて大変ありがたく感じております。生地がしっかりしていて透けないのに、通気性がよく夏も快適に過ごせました。また、ウエストのリブ素材がお腹をすっぽり包んでくれて、着心地もとてもよかったです。本当にありがとうございました。

3 長崎県内病院の取り組み

長崎県内の病院における、ワークライフバランス実現に向けた取り組みを紹介しています。

【長崎大学病院の取り組み】

1 ）医局長訪問

各診療科の現状を把握するために、各医局を訪問しました。
センターの目的と活動内容をご案内して、様々なご意見をいただきました。

医局訪問

·期　間：平成30年5月11日～21日（6日間）
·訪問先：診療科や中央診療部の医局長24名　　新任14名・継続10名
　　男性18名・女性　6名（過去最多）
　　うち共働き医局長 7名
·訪問者：南副センター長、事務2名

面談風景
耳鼻咽喉科·頭頸部外科
北岡杏子先生

面談風景
形成外科
今村禎伸先生

昨年は新任医局長5名でしたが、今年は14名が新任でした。「働き方改革」「長時間勤務の是正」など、社会全体の流れもあり、医局長自身が、「働き方改革を意識している」「男性でも育児休業が取得できると知っている」の質問には全員が「Yes」の回答でした。
勤務環境改善についての意識については、実践したい取り組みNo.1は「勤務時間削減」でした。改善が見込めそうな取り組みNo.1は「有給休暇取得促進」でした。改善は難しいと思う取り組みNo.1は「当直回数の削減」でした。医局の「働き方改革」について、すでに多くの取り組みがありましたので、ご紹介いたします。導入できることがあれば、ぜひ検討してください! また、イクボス検定の資料も参考までにお配りしました。

●病棟主治医に関して　★診療看護師の導入は、画期的な変化になりそうです。
·主治医はチーム制にした（2医局）。
·診療看護師を入職させて、医師も看護師も非常に助かっている。

●当直に関して
·病棟当直廃止、オンコールのみにした。
·2人当直を＜1人当直+オンコール体制＞としたことで、当直回数は減った（2医局）。
·子育て中の女性医師の日直を開始した。

●会議に関して　★カンファの司会進行役をたてると、時間がコントロールできるようです。
·カンファ開始時間を早めた（1医局）、あるいは検討中（1医局）。
·カンファの司会進行役を教員が行い、時間厳守としている。
·学会予行を2回→1回へ減数して、所要時間が短縮した。

●働き方に関して　★タスクシェアで、医師の負担軽減ができるようです。
·タイムカードを設置して、勤務時間を自己管理するようにしている。
·有給休暇·夏季休暇をきちんと取るようにすすめている（2医局）。
·医師の仕事の一部を看護師に委譲、看護師の仕事の一部を看護助手に委譲して、医師の負担軽減を図っている。
·金曜当直にして翌日と連続勤務にならないようにしている。
·長崎医師保育サポートシステムを利用して助かっている。

●時間制約のある医師への配慮に関して　★カンファ参加免除ではなく、参加できる時間帯へ変更をしているのは、スキルアップ･モチベーションアップになると思います。
･人員に余裕のある地域病院での勤務にしている。
･医局会･カンファの開始時間を変更し、子育て中の女性医師も参加できるようにした（2医局）。
･診療開始時間を8:00⇒8:30へ変更し、子育て中の女性医師も最初から参加可能にした。

●問題提起
･医局人事で関連病院を1年ごとに異動する若い医師の場合、継続勤務とならずに育休を取れない。
･パート勤務の女性医師のモチベーション･やる気･専門医取得希望などが低い。
･医員枠が不足して仕方なく復帰医枠を利用するが、条件が悪い。
･中堅医師が、臨床では病院増収を求められ、研究では業績を求められ、教育では時間増の学生実習への対応を求められて、疲弊している。
･当直をしている医師と、していない医師の間に軋轢が生じている。
･大学病院近隣の喫煙所。

上記の問題提起にあるように、業績アップのプレッシャー、手術件数アップのプレッシャー、長時間にわたる学生実習への対応などで、教員は疲弊しているという声が多く聞かれ、効率よく仕事をするだけでは解決しない部分があると感じました。大学病院ならではの忙しさを、どうやったら解決できるのでしょうか？ 研究･臨床･教育のそれぞれの主担当を決めて、1人への負担が重くなり過ぎないようにすることが今後の検討課題でしょうか？

●女性医師実態調査の結果
毎年、長崎県に報告している女性医師実態調査（5月1日時点）では、医局人事に関わっている女性医師･長崎大学病院に勤務している女性医師の人数は、いずれも昨年度より減少していました。女性教員の割合は19%、女性医師の勤務形態でパートタイム医員は16%でした。
長崎大学病院勤務の女性医師165名のうち、71名（44%）は、小学生までの子どもがおり、その割合は昨年度と同じでした。子どものいる女性医師71名のうち、当直をしているのは8名のみ、日直をしているのは19名のみと、日当直免除が圧倒的に多い状況でした。
医局の医師数で、女性が男性より多い科（5割超）は、産婦人科･眼科･皮膚科アレルギー科です。男性よりやや女性が少ない科（4割台）は、小児科･麻酔科･放射線科です。女性が3割台の科は第一内科･消化器内科･耳鼻咽喉科頭頸部外科･総合診療科･原研内科です。それ以外の科の女性は2割以下です。
女性医師の多い科で、子育て中の女性医師が多い場合は、日当直免除により、周囲の医師の負担が増えてしまいます。週末の日直や、金曜の夜当直で連続勤務にならない時、家庭の都合のつく時の夜当直など、子育て中の医師が少しでも負担していくように検討する必要があります。

今、女性医師が3割の時代となり、これまでの男性医師多数派時代と違って、みんなが納得できる形態での緩和･免除を考えていかないといけない時代になってきています。時間制約のある女性医師が、マミートラックに陥らないように、仕事の難易度を少しずつ上げていくように、日当直も少しずつ負担できるように、医局長含め管理職の先生方に考えていただきたいと思います。
子育て中の女性医師が当直できるようになるには、パートナーはじめ家族の協力が必要です。祖父母のいない方は、「長崎医師保育サポートシステム」をぜひ利用していただきたいと思います。利用している医師には、本当に助かっていると好評です。

◎ご提供いただいた情報は、今後の活動に役立ててまいりますので、
今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

２）あじさい保育園

＜概要＞　保育日･時間：月～土曜日　7:00～18:00（20:00まで延長可）　水曜日　24時間
定　員：60名
※食事（おやつ･ミルク含む）やおむつは、持参か購入が必要。

入園申し込みやお問い合わせは、長崎大学病院総務課へお電話ください。TEL：095-819-7527

あじさい保育園　利用者職種

部局等	内訳	人数（※）
病院	医師･歯科医師	13
	看護師（助産師）	9
	技師	1
	薬剤師	1
	事務職員	3
	栄養士	1
病院以外	教員	3
	事務職員	1
	学生･大学院生	1
合計		33人

うち女性医師12人

平成30年12月31日時点

あじさい保育園　年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	人数（※）
0歳	30人	12
1歳		7
2歳	30人	11
3歳		4
4歳		0
5歳		2
合計	60人	36人

平成30年12月31日時点

※1家庭で複数人の児童利用等により、人数には差異があります。

【長崎大学の取り組み】

３）文教おもやい保育園

＜概要＞　保育日･時間：月～土曜日　7:00～18:00（19:00まで延長可）
定　員：30名
※自園調理のため給食･おやつ代は基本料金に含まれます。

入園申し込みやお問い合わせは、長崎大学ダイバーシティ推進センターへお電話ください。
TEL：095-819-2889

おもやい保育園　利用者職種

部局等	内訳	人数（※）
大学	教員	9
	事務職員	3
病院	看護師（助産師）	1
	技術職員	2
合計		15人

平成30年12月31日時点

おもやい保育園　年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	人数（※）
0歳	7	7
1歳	8	5
2歳	8	0
3歳	4	1
4歳	3	0
5歳		0
合計	30人	13人

平成30年12月31日時点

※両親共に大学職員の場合や1家庭で複数人の児童利用等により、人数には差異があります。

【地域病院の取り組み】
４）ワークライフバランス推進員

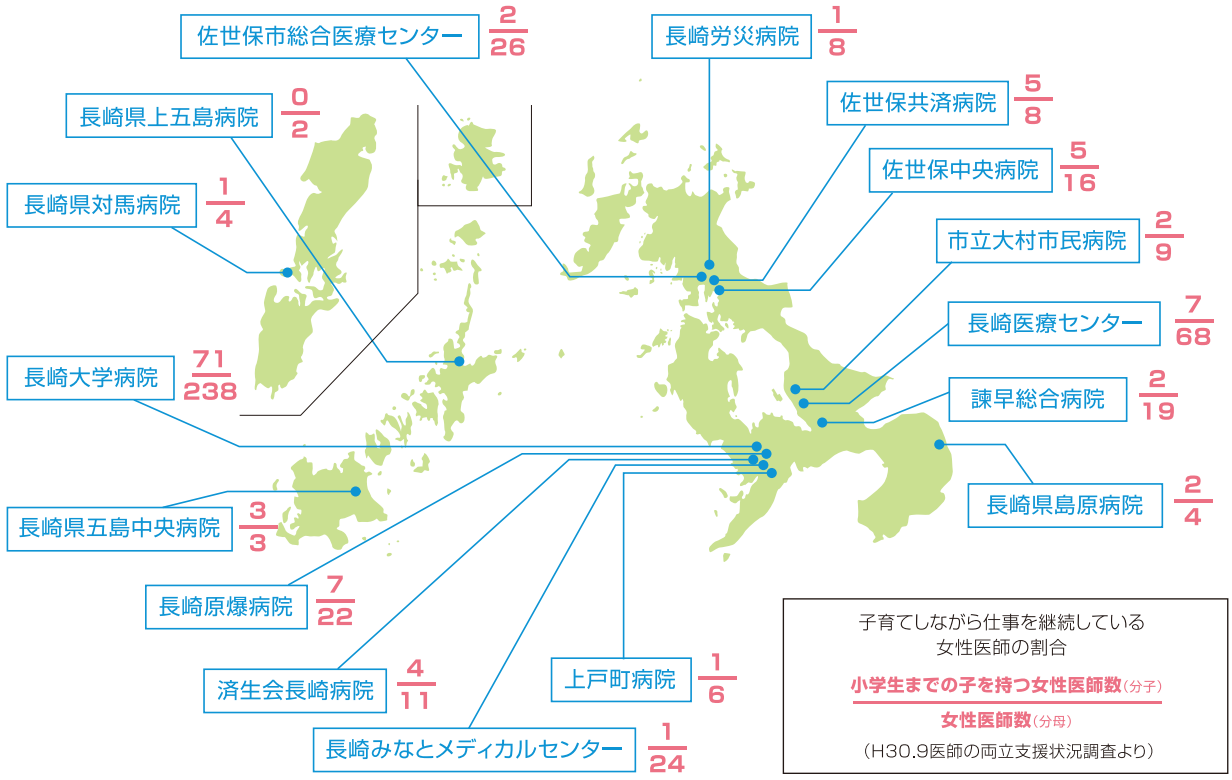
ワークライフバランス施策の一つとして、県内の病院や医局の「ワークライフバランス推進員」に旗振り役として活動してもらうことを推奨しています。

病院や医局窓口としてメディカル･ワークライフバランスセンターと有益な情報交換や協力関係を築くことで、円滑に職場復帰への道筋を示すことが可能になりました。また、安心してライフイベントを迎え、キャリアを継続できる地盤も固まってきました。

長崎県内の医師が「仕事と生活の両立を図りながら活躍できる」環境のバックアップ体制を構築していきたいと考えます。推進員として活動したいという思いのある医師のみなさまをお待ちしています。

県内16病院にワークライフバランス推進員がいます

研修医が活動する病院には、ワークライフバランス推進員がいます。
「長崎県内の病院は、どこも働きやすい」の魅力を伝え、県内外からの優秀な人材の確保･定着に努めます。



ワークライフバランス推進員40名（敬称略）　平成31年1月時点

1長崎みなとメディカルセンター
増﨑 雅子　産科･婦人科
2長崎原爆病院
猪熊 美枝　麻酔科
3済生会長崎病院
木下 直江　病理診断科
4上戸町病院
今村 祐子　総合診療科
5長崎医療センター
山口 美知子　麻酔科
6諫早総合病院
田代 香澄　小児科
7市立大村市民病院
柴田 由可　救急総合診療科
8長崎県島原病院
菅崎 七枝　呼吸器内科
9佐世保市総合医療センター
野々下 晃子　産婦人科
10佐世保共済病院
木本 文子　麻酔科

11長崎労災病院
本田 章子　第二呼吸器科
12佐世保中央病院
落合 朋子　循環器内科
13長崎県五島中央病院
長置 美穂　内科
14長崎県上五島病院
小屋松 加奈子　産婦人科
15長崎県対馬病院
山内 美樹　内科
16長崎大学病院
①住吉 玲美　第一内科･リウマチ／膠原病内科
②牟田 久美子　第二内科･腎臓内科
③赤澤 祐子　消化器内科
④松島 加代子　医療教育開発センター
⑤泉田 誠也　循環器内科
⑥大橋 愛子　精神科神経科
⑦佐々木 理代　小児科
⑧松本 恵　腫瘍外科

⑨崎村 千香　移植･消化器外科
⑩芦田 美輪　皮膚科･アレルギー科
⑪梶山 彩乃　眼科
⑫井手口 怜子　放射線科
⑬北島 百合子　産科婦人科
⑭吉﨑 真依　麻酔科
⑮泉田 真生　熱研内科
⑯依田 彩文　総合診療科
⑰岡崎 成弘　整形外科
⑱中西 裕美　泌尿器科
⑲木原 千春　耳鼻咽喉科･頭頸部外科
⑳堀江 信貴　脳神経外科
㉑千住 千佳子　形成外科
㉒嶋田 隆志　心臓血管外科
㉓蓬莱 真喜子　原研内科
㉔唐田 博貴　病理診断科･病理部
㉕猪熊 孝実　高度救命救急センター

ワークライフバランス推進員意見交換会

【第1回】

日時：平成30年8月10日（金）16:30～17:20

場所：長崎大学病院　教職員ラウンジ

推進員参加：11名

第一内科（住吉先生）	腎臓内科（牟田先生）
小児科（佐々木先生）	腫瘍外科（松本先生）
皮膚科（富村先生）	産科婦人科（北島先生）
麻酔科（吉﨑先生）	整形外科（岡崎先生）
耳鼻咽喉科（木原先生）	原研内科（蓬莱先生）
長崎みなとメディカルセンター 産科･婦人科（増﨑先生）	

【第2回】

日時：平成31年1月23日（水）16:00～16:40

場所：長崎大学病院　教職員ラウンジ

推進員参加：11名

第一内科（住吉先生）	腎臓内科（牟田先生）
小児科（佐々木先生）	腫瘍外科（松本先生）
皮膚科（芦田先生）	放射線科（井手口先生）
産科婦人科（北島先生）	麻酔科（吉﨑先生）
総合診療科（依田先生）	形成外科（千住先生）
長崎原爆病院　麻酔科（猪熊先生）	

ワークライフバランス推進員の経緯･総括

平成24年度　『あじさいプロジェクト』スタート。
平成25年度　長崎大学病院内の各医局に医局長推薦によるワークライフバランス推進員が24名誕生。
平成26年度　「推進員意見交換ランチ会」4回開催。この場で挙げられた意見から、医局の週間スケジュール見直しに至ったケースあり。
平成27年度　「意見交換会」2回開催。春の医局長訪問で休職者情報入手、秋に推進員へ復職状況の確認を開始。
平成28年度　「意見交換会」2回開催。女性医師が多い医局と少ない医局では、子育て女性医師を取り巻く環境が異なることが話された。
平成29年度　「意見交換会」2回開催。県内の研修10病院に推進員が誕生。
平成30年度　「意見交換会」2回開催、院外から推進員2名参加。県内の研修15病院全てに推進員が誕生。
長崎大学病院の「院内病児保育施設設置検討WG」が改めて発足し、推進員やセンターが招集された。

平成26年度から開催の推進員意見交換会では、各医局の職場環境を紹介していただき、医局ごとに異なる慣習･環境があることを共有してきました。また、問題提起も行われ、そこから医局の週間スケジュールの変更や、病児保育ワーキンググループの発足など、問題解消の糸口となりました。今後も推進員の皆さんから率直な意見を出していただき、職場環境改善につなげたいと思います。

５）病院インタビュー ※インタビュー全文は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。

長崎県島原病院（インタビュー：平成30年7月23日）

ー人材流動性を高め、いかに新たな強みを見つけ出すか。職員の多様性に備えてハード面を整備し、これからソフト面の強化に職員一丸となって取り組む長崎県島原病院ー

勤続年数7年で、12か月の育児休業を取得し、2017年9月に復職された菅崎七枝先生に働き方と子育てについてお伺いしました

Q.現在の勤務形態はどのようになっていますか。
　フルタイム勤務です。日当直は月約5回で、その間は夫が一人で子どもの面倒を見てくれています。夫は放射線技師なのですが、月4回程度待機があり、夜中でも呼び出しがあるので、お互い重ならないように調整しています。
　入院患者を担当している時は、帰りが遅くなってしまうことが多かったですが、今は担当していないので、17時30分から18時の間には帰らせてもらっています。

Q.復帰した際の働き方はいかがでしたか。
　復職した直後からフルタイム勤務でしたが、日当直は2か月くらい免除してもらいました。

Q.仕事と生活を両立するために工夫していることはありますか。
　健康には気をつけています。親も子どもも元気でいれば、仕事に集中できます。あとは、夫婦仲良く協力し合うことですね。

Q.困っていることはありますか。
　子どもの病気の時が一番困りますね。幸い元気な子で、これまで長い間保育園を休むことはなかったので助かっていますが、病気の時は夫婦で仕事を休める方が休んでいます。私が1～2日休んだり、私と夫で午前と午後を交互に休んだりしながら対応しています。

Q.今後のキャリアプランはどうお考えですか。
　今後は専門医の資格を維持していきながら、できることをやっていきたいと思っています。特にがん薬物療法専門医を維持するためには5年毎の更新(書類申請と筆記試験)が必要です。資格を取るのも大変だったので、できれば維持したいですね。先週は臨床腫瘍学会に参加したのですが、初めて学会託児を利用しました。

勤続年数5年で、研修医1年目に第1子妊娠、第2子は6か月休業し、2016年4月に復職された中島志帆先生に働き方と子育てについてお伺いしました

Q.現在の勤務形態はどのようになっていますか。
　フルタイム勤務です。麻酔科は元々当直がないのですが、オンコールは免除してもらっています。回数は多くはないのですが、土日も呼ばれることがあるので、免除してもらいありがたいです。できるだけ17時30分に帰りますが、手術が長引く時は終わるまでいます。

Q.家庭で家事や育児の分担はどうされていますか。
　夫は当院の消化器内科で働いていますが、私より早く仕事が終わることは滅多にないので、なかなか分担は難しい状況です。保育園のお迎えは毎日義母にお願いしています。夫の実家は福岡で、義母は日曜の夜に福岡から島原に来て、金曜の夜に福岡へ帰るという生活を送ってくれています。育児も家事も義母にサポートしてもらっているので、私は仕事に邁進できます。

Q.復帰した際の働き方はいかがでしたか。
　今、子どもが4歳と2歳で、研修中に1人目を出産して、研修が終わった時に2人目を出産しました。研修中に妊娠と出産をしたので研修は全部で3年かかりました。病院にはご迷惑をおかけしてしまったと思いますが、当直免除など、配慮していただきました。

Q.仕事と子育ての両立に苦慮している医師や若い医師へ、メッセージをお願いします。
　私は義母の全面サポートに助けられているという、おそらくかなり特殊な状況なので、あまり両立について言える立場ではないのですが、職場や上司の理解があってこそ、現状の働き方ができていると思っています。
　もちろん育児も仕事も大事だし、妊娠･出産も早い方がいいとか遅い方がいいとか、考え方は人それぞれだと思います。私は、特に資格を持っていない状況で子どもを出産したので、今後のキャリアにも関わってくるとは思いますが、個人的には、授かりものだと思っています。

徳永能治院長に、病院として両立支援の取り組みや考えなどについて伺いました

Q.病院として育児･介護支援に関して取り組んでいることはありますか。

2年前の2016年4月1日に「長崎県島原病院院内保育施設たんぽぽ」を開設したことでしょうか。子育て中の医師の支援を行う一方で、部署内でどのように勤務体制を整えるか、両方の調整が必要です。医師数が多ければ融通が利くかもしれませんが、子育て中の医師本人も言い出しにくいでしょうから、病院が調整役を務めなければいけません。フォロー体制「案」を作成すること自体に無理がある、という現状で、それでも各部署で科長が根回しして、何とかできる事を生み出してくれているのが実態です。

保育所そのものの運営も病院としては不得手なため、外部委託をしてます。外部委託でうまく運営できているのか、近隣の保育所と比較してアドバンテージ(強み･有利な点)がどれくらいあるのかなど、標準以上の設備や利用者の満足度を満たしているのか検証が必要だと考えています。

全てが小規模ですから、何かを支援するということは、残りの人達が色々工夫しないといけない、この作業を前向きに検討しなければいけないと感じています。

Q.院長からメッセージをお願いします

病院として、何か新しい運営をしようと検討する際は、当たり前のことですが常に職員全体への還元を意識しなければいけません。その中で、医師に限らず、病院は女性が主体となって働いているところですから、その人達が働きやすく、なおかつ将来に希望を持てるような病院にしないといけないと考えています。いろいろな休みを取得できるか、例えば夫婦で勤めている場合は、お互いに休みをバランス良く取得できるかなどを含めて考えなければいけないと思っています。

今は職員募集をしても、なかなか人材が見つからない時代ですので、むしろ職員が減る中、足りない中での運用を各部署内で、どう上手く調整するかという意見を集める機会を作ろうと思います。

溝田小夜子看護部長に、看護部の育児支援に関する取り組みをお伺いしました

Q.看護部として、育児支援の取り組みを教えてください。

看護師の育児休業取得期間の平均を調べたところ、昨年2017年度は12か月、2016年度は16か月でした。1年以上の取得者が多いです。各々に必要な育児休業を取得してもらって、復帰した時にしっかり働けるようにと思います。また、地元出身で生活のベース(基盤)が島原にある職員がほとんどです。第2子、第3子を出産しながら働き続けており、当院では出産を機に退職するケースはほとんどありません。育児休業取得率も100%です。

Q.夜勤の状況はいかがですか。

当院では、復職後から夜勤に入ってもらいますので、夜勤ができるようになってから復職されてきます。お子さんのお世話は、家族･夫婦間で調整しているようです。3交代･2交代の病棟での復職は難しいという相談があった場合、手術室(オンコール)や外来は、夜勤が月3～4回程度なので、復帰しやすい部署へ調整することもあります。

院内保育所を見学させていただきました

病院の敷地内にあり、駐車場も完備されていて利便性に優れています。
1階が「たんぽぽ保育所」、2階は研修医や看護師のための宿舎として1DK(家電付き)が4部屋用意されています。

南副センター長の所感

専門医としての使命感をもって夫婦仲良く両立を頑張っている菅崎先生、親族のサポートを得て仕事に集中できる中島先生、どちらも島原の医療にしっかり貢献されており、また看護部では、復職後は夜勤免除のない体制が構築されており、子どもがいても、しっかり働くという姿勢を感じました。

６）地域就労支援病院

県内病院の就労支援情報を掲載しています。就労希望の診療科や両立に配慮した職場環境を地域毎に検索できます。

検索手順

❶希望する条件をクリック
（複数選択可）

↓

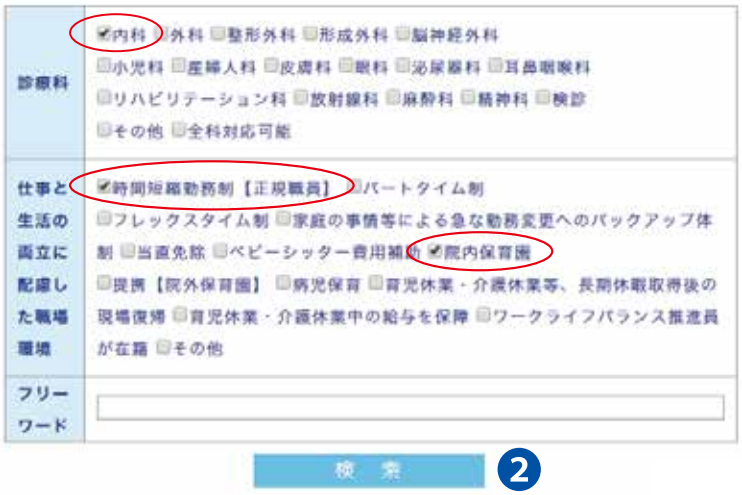
❷検索ボタンをクリック

↓

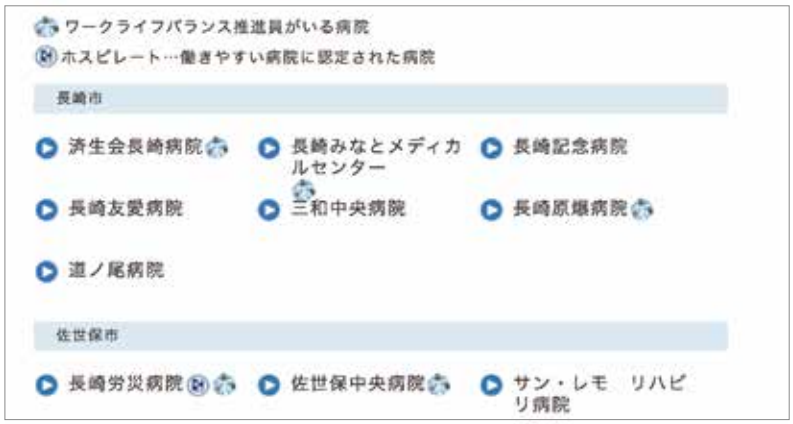
❸条件を全て満たした病院が
表示される

※ヒットしない場合は条件を
減らして再度検索してください。

❶（例）内科&時間短縮勤務制【正規職員】&院内保育園の場合



❸



平成30年度
地域就労支援登録　5病院

登録数　県内149病院のうち、
94病院（登録率63%）

井上病院

出島病院

恵寿病院

宮原病院

京町内科病院

登録病院一覧

長崎市
長崎大学病院
済生会長崎病院
長崎腎病院
掖済会長崎病院
井上病院
重工記念長崎病院
長崎みなとメディカルセンター
出島病院
高原中央病院
十善会病院
昭和会病院
上戸町病院
長崎病院
長崎あじさい病院
和仁会病院
日見中央病院
田上病院
長崎記念病院
長崎友愛病院
三和中央病院
小江原中央病院
日浦病院
大石共立病院
ニュー琴海病院
田川療養所
光晴会病院
虹が丘病院
長崎北徳洲会病院
長崎原爆病院
三原台病院
聖フランシスコ病院
長崎みどり病院
道ノ尾病院

佐世保市
長崎労災病院
燿光リハビリテーション病院
千住病院
佐世保市総合医療センター
宮原病院
福田外科病院
京町内科病院
佐世保共済病院
佐世保中央病院
天神病院
佐世保北病院
佐世保記念病院
三川内病院
西海病院
サン・レモ リハビリ病院
北松中央病院
潜竜徳田循環器科内科
整形外科病院

島原市
高城病院
八尾病院
島原マタニティ病院
柴田長庚堂病院
長崎県島原病院

大村市
長崎医療センター
大村共立病院
中澤病院
市立大村市民病院
南野病院
貞松病院
長崎県精神医療センター

諫早市
諫早記念病院
西諫早病院
宮崎病院
長崎県立こども
医療福祉センター
諫早総合病院
小鳥居諫早病院
恵寿病院
諫早療育センター
みさかえの園あゆみの家
みさかえの園総合発達医療
福祉センターむつみの家
長崎原爆諫早病院

平戸市
青洲会病院
谷川病院
北川病院
柿添病院
平戸市民病院

松浦市
菊地病院

対馬市
長崎県対馬病院

壱岐市
長崎県壱岐病院

五島市
郡家病院
五島中央病院

西海市
長崎セント・ノーヴァ病院
真珠園療養所

雲仙市
公立新小浜病院
安藤病院

南島原市
泉川病院

西彼杵郡
長崎百合野病院
長崎北病院
女の都病院

東彼杵郡
長崎川棚医療センター
鈴木病院

南松浦郡
上五島病院

お願い

登録がお済みでない病院（メルマガ「あじさいプロジェクト通信」が届いていない）は、あじさいプロジェクトホームページの地域病院専用登録フォームよりご登録ください。情報の更新につきましても、随時ご連絡をお待ちしています。
※メールマガジン「あじさいプロジェクト通信」を通して、イベント開催のお知らせ・活動内容のご報告・調査のご協力お願いなどをお届けします。お知らせいただくメールアドレスは、貴院でワークライフバランスに関する担当部署の方などをお願いします。

平成30年度　新規メルアド登録　13病院
登録数　県内149病院のうち、119病院（登録率80%）

７）私たちのワークライフバランス実践術

ワークライフバランスを実践している医師など医療人のみなさんへ、両立のコツやキャリアについてインタビューしています。※インタビュー全文は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。

【私たちのワークライフバランス実践術No.17】
平成30年9月インタビュー

長崎大学病院 消化器内科（客員研究員）　南 ひとみ 先生
内科医のパートナーと11か月のお子さん

『2人の保育サポーターさんの心強い支援と パートナーの最大限の協力を得て』

Q.現在の「ワーク」と「ライフ」のバランスは?

A.開業医の仕事は月･火･木･金･土曜日です。水曜日は大学病院に来ています。出産前は火曜日の午後から夕方のカンファまで出ていました。また、出産前は、年間でトータルして2か月以上、国内外に出張していました。現在は発表や座長などの役職がある学会のみ、月1回程度に控えています。海外出張は、最近になって夫の母親に他県から来てもらって、少しずつ行くことができるようになりました。妊娠を機に念願だった犬を飼い始め、週末は子どもと犬と一緒に遊んでいます。

Q.育児･家事の時間短縮のコツやおすすめしたいことは?　パートナーとの分担は?

A.平日の育児と家事は、ほぼ保育サポーターさんにお願いしており、簡単な食事の準備や掃除、洗濯物の片づけをしていただいています。お風呂や水回りの掃除は、別途外部委託しています。週2～3回の夕食はしっかり作ります。買い物に行く時間はないので、スーパーの宅配を利用しています。休日の家事と育児は、私か夫の手が空いているほうがやりますが、子どもに関わる時間は私の方が少ないですね。夫が子どもの面倒をよくみてくれるので、私の家事がはかどるのですが、子どもが夫になついてちょっと寂しいと感じたら「交代して」と言う時もあります。

保育サポーターさんに関しては、2人体制のフルタイムで働いてもらっているので、大変かもしれません。クリニック近くの自宅で保育してもらい、休み時間には帰宅して様子を確認できるため、とても安心です。報酬の負担はありますが、お陰様で仕事ができますし、私は、信頼できる保育サポーターさんに出会えてラッキーだと思っています。

Q.これから仕事と子育てを両立する皆さんへ、応援のメッセージをお願いします。

A.仕事も子育ても、どんなことも、周りの助けがないとできないことなので、仕事と子育てだけに固執して思い詰めないで、信頼できる外部の助けを得て、上手くやっていくようにするといいですね。できることしかできないと割り切って、できることをできるようにちゃんとやれば、どんな仕事が偉いとか、どれだけしたら偉いとかではないと思っています。どこでどんな仕事をしていても、常にそのときが自分のピークだと思えるような人生を送ってきたし、今後もそうなりたいと思っています。

人それぞれですが、最初にやりたい仕事のキャリアを確立してから子どもを産んだのは、私は良かったと思います。子どもができると、フルタイムの仕事がもう一つできるみたいなものでしょうから。でも、どのタイミングで子どもを授かっても、夫婦のどちらもが平等に休暇を取得できたり、仕事と子育てを両立しやすい世の中になって欲しいですね。

1日のスケジュール

家事･育児支援者

＜保育サポーター＞
- 医師宅で保育全般（病児保育含む）
- 洗濯物全般（回す･干す･アイロンがけ･片付け）
- 掃除全般（トイレ･洗面台･室内･玄関）
- 夕食準備（宅配材料使用･炊飯器セット）

＜外注業者＞
- お風呂掃除

3．調査・研究

※詳細は、あじさいプロジェクトホームページをご覧ください。

1 平成30年度　医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート

1.調査の目的

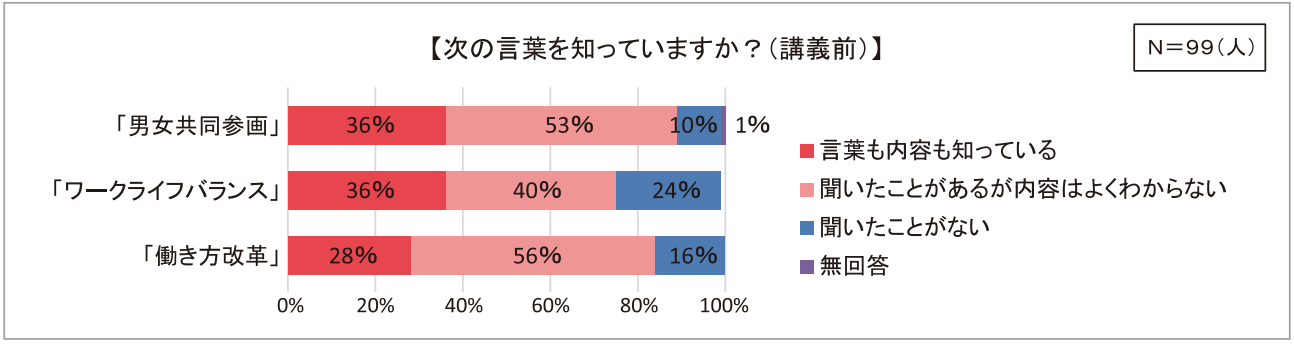
「ワークライフバランス」に関する講義の受講前後で、キャリアプランニングや仕事とライフイベントの両立、産前産後の制度などについて、学生の意識・考え方の変化を把握するため。

2.対象と方法

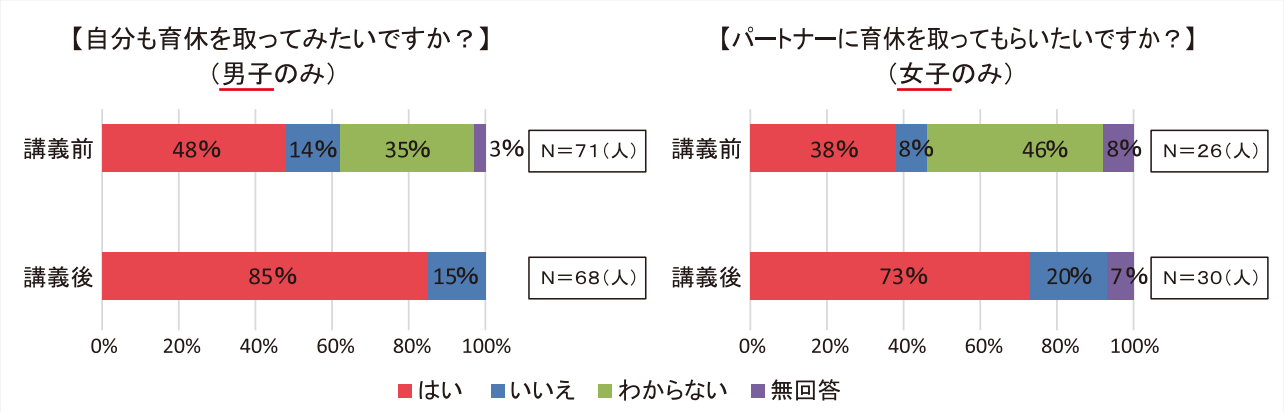
実　施　日：平成30年10月5日
調査対象：医学部3年生126名（男子95名、女子31名）
調査方法：「医と社会」授業1～6時限を使って、ワークライフバランス講義、医師夫婦の両立事例をグループワーク、グループ発表、意見交換、ロールモデル医師発表、外部講師講演、キャリア＆ライフ未来年表の作成を行う。授業前後でアンケートを行い、その場で回収した。

配布・回答数（回答率）：授業前配布112名　回収99名（88.4%）
授業後配布116名　回収98名（84.5%）

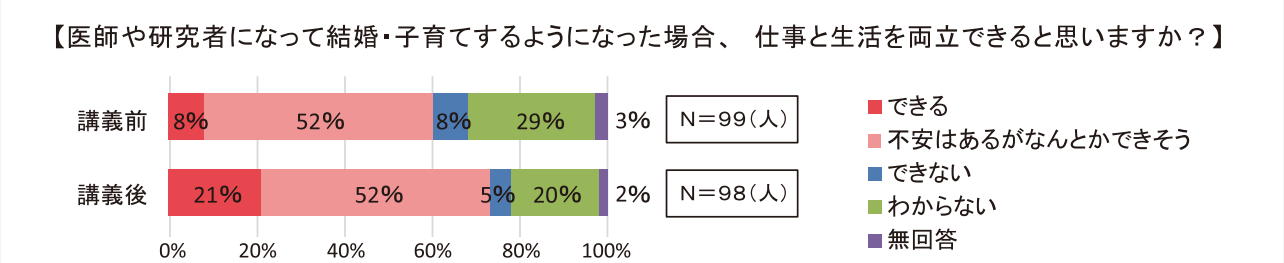
3.結果と考察



●「ワークライフバランス」の言葉も内容も知っている割合は、平成26年度～29年度の4回の講義では20%前後でしたが、今年度は36%と最も高い結果となりました。また、「働き方改革」の言葉も内容も知っている割合は30%弱にとどまりましたが、聞いたことがあると答えた割合は「ワークライフバランス」の76%を上回り84%でした。



●講義を受ける前から「自分も育休を取ってみたい」と考える男子学生の割合は48%で、平成26年度からの講義の中で一番高い結果でした。



●講義後には、仕事と生活の両立への自信は70%以上でした。「できない」「わからない」の割合はいずれも講義後に減少しました。

2 平成30年度　医師の両立支援状況調査

1.調査の目的

病院経営者･管理者として、ワークライフバランス施策に対する認識を把握し、長崎県内病院の育児･介護休業制度等の両立支援策の取り組み状況や短時間勤務制度利用等の実態調査を行う。また、労働環境改善を意識した各病院の先進的な取組を把握して、メールマガジンを通して情報発信を行うことで、個人や組織に新しい職場環境づくりを促す。

2.調査の方法

実 施 月：平成30年9月
調査対象：長崎県内150病院
調査方法：調査票を郵送し、同封の返信用封筒やメールで回収。
質問内容：常勤･非常勤医師数、子育て中の医師数、育児休業･介護休業を取得した職員数、職場環境の整備について、ワークライフバランス施策の認識についてなど。

3.結果と考察

配付･回答数（回答率）：配付150病院　回答103病院（68.7%）

【103病院の調査結果】

①5年連続で100以上の病院から回答があった。県内病院のメールアドレス登録率は80%で、調査票の送付や、内容確認などをスムーズに行えた。

②県内の病院に勤務する女性医師の割合は、最近6年間は22−23%で推移。勤務形態は女性医師の場合、常勤58%、非常勤42%で、昨年度よりわずかに非常勤医師数が増加。男性の非常勤も、昨年度の18%から21%と増加した。（図1）

③小学6年生までの子がいる女性医師は143人で、女性医師全体の23%、医師全体では5%である。（図1･2）

④ワークライフバランス施策:施策を重視46%、トップ主導で推進38%と、過去5年間の回答結果の中で最高。しかし施策のデメリットとして、病院にとって負担が大きいと感じる割合は昨年度9%から15%と増加した。（図3）

⑤勤務環境の整備:仕事と生活の両立ができるように配慮した制度は、時間短縮勤務や呼び出し･当直への配慮など60%以上の病院で導入。施設保有率は、院内保育所33%、院内病児保育施設5%と低い。（図4）

⑥内閣府が提唱する「働き方改革」を意識した取り組み事例は、「年次有給休暇取得の促進」「会議開始時間の見直し･時間短縮などタイムマネジメント意識の醸成」「業務分掌の見直しやタスクシフティングの推進」などに多くの病院が着手。（図5）

⑦「女性活躍推進」を意識した取り組み事例は、「柔軟な勤務体制」「資格取得･研修参加への支援」「保育に係る費用の補助」などが挙がった。男性にとっての仕事と育児･家事参画の推奨事例はごくわずかだった。（図6）

【医療圏別の女性医師について】

①回答のあった103病院に勤務する女性医師611人（大学病院を含む）のうち、子育て中（小学6年生までの子がいる）の女性医師は143人（23%）であった。（図7）

②長崎･西彼医療圏に女性医師は最多の383人（全体63%）が勤務中で、そのうち子育て中の女性医師も98人（26%、全体16%）と最多。続いて、県央医療圏に124人の女性医師、うち子育て中は20人（16%）、3番目に多いのは佐世保医療圏で74人の女性医師、うち子育て中は18人（24%）。
上位3つの医療圏に勤務する女性医師は全体の95%を占め、他の医療圏には約10人未満、県北医療圏には、3年連続で子育て中の女性医師は0人。（図8･9）

通勤や通学の利便性、教育や保育環境等の整備状況が、子どもがいる女性医師の勤務地に関与し、偏在する理由と考えられますが、院内保育所･院内病児保育施設があれば、子どもが小さい時に離島などで勤務をすることも選択肢のひとつになると思います。引き続き、施設や環境の整備を検討していただければと思います。

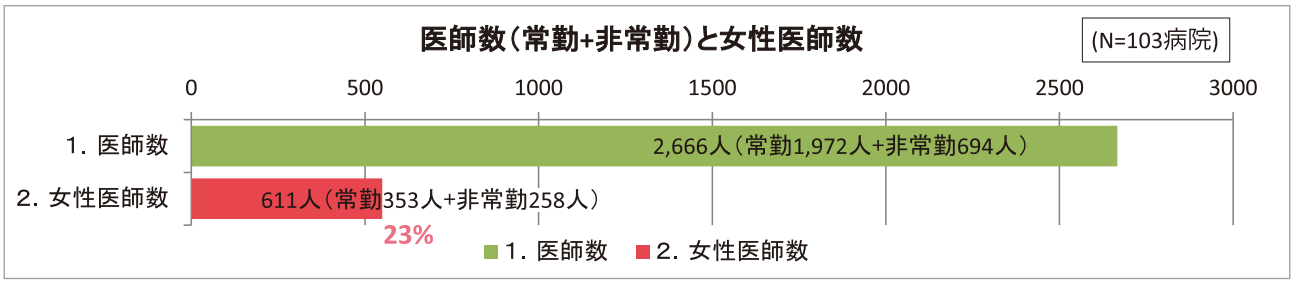

医師数（常勤+非常勤）と女性医師数
(N=103病院)
0
500
1000
1500
2000
2500
3000
1．医師数
2．女性医師数
2,666人（常勤1,972人+非常勤694人）
611人（常勤353人+非常勤258人）
23%
1．医師数
2．女性医師数

図1

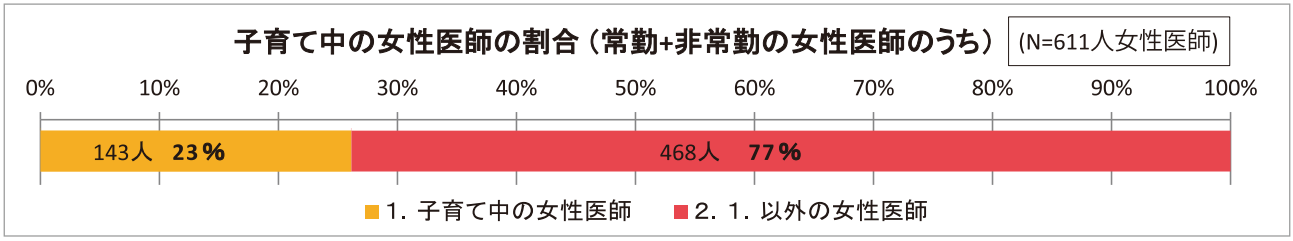

子育て中の女性医師の割合（常勤+非常勤の女性医師のうち）
(N=611人女性医師)
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
143人 23%
468人 77%
1．子育て中の女性医師
2．1．以外の女性医師

図2

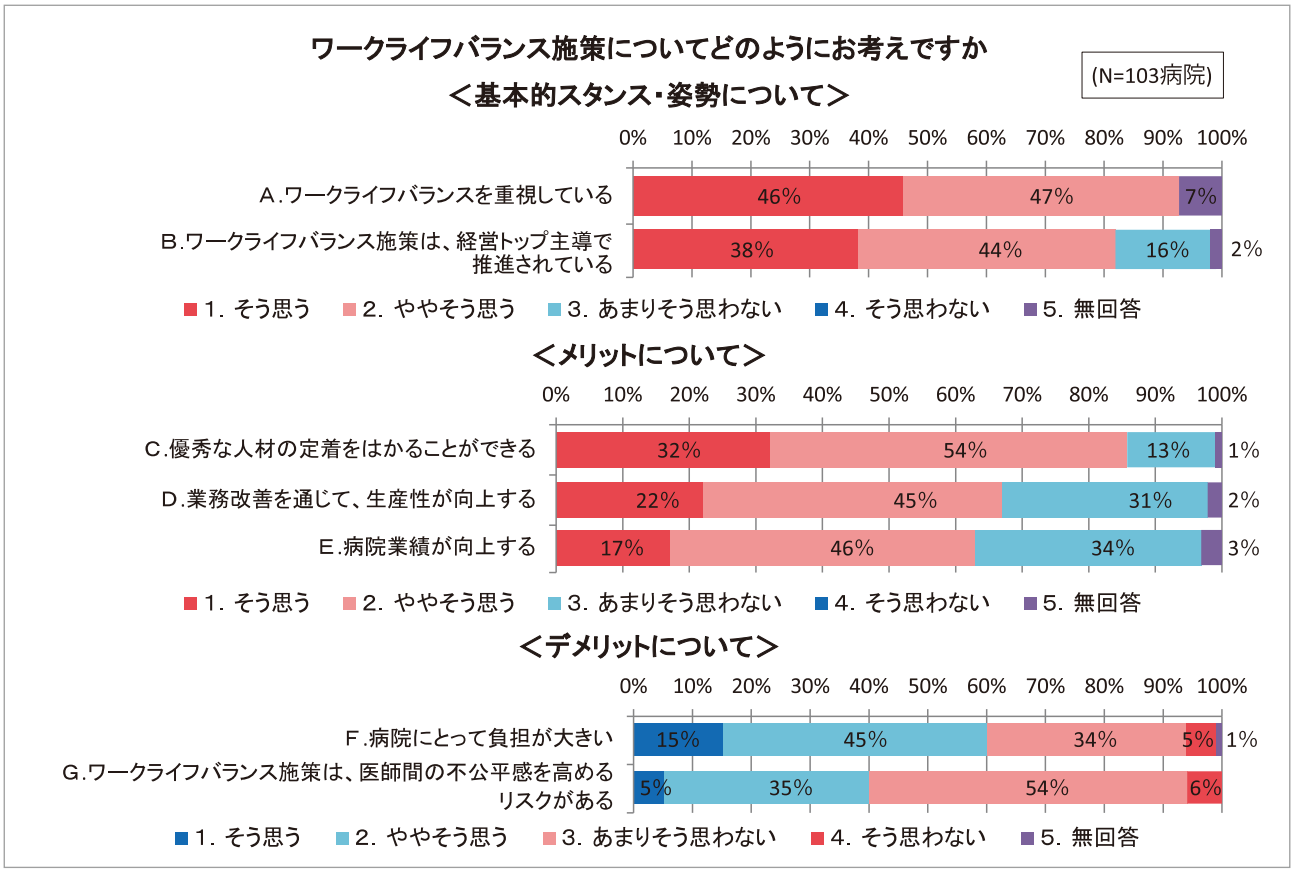

ワークライフバランス施策についてどのようにお考えですか
(N=103病院)
＜基本的スタンス・姿勢について＞
A.ワークライフバランスを重視している
46%
47%
7%
B.ワークライフバランス施策は、経営トップ主導で推進されている
38%
44%
16%
2%
1．そう思う
2．ややそう思う
3．あまりそう思わない
4．そう思わない
5．無回答
＜メリットについて＞
C.優秀な人材の定着をはかることができる
32%
54%
13%
1%
D.業務改善を通じて、生産性が向上する
22%
45%
31%
2%
E.病院業績が向上する
17%
46%
34%
3%
＜デメリットについて＞
F.病院にとって負担が大きい
15%
45%
34%
5%
1%
G.ワークライフバランス施策は、医師間の不公平感を高めるリスクがある
5%
35%
54%
6%

図3

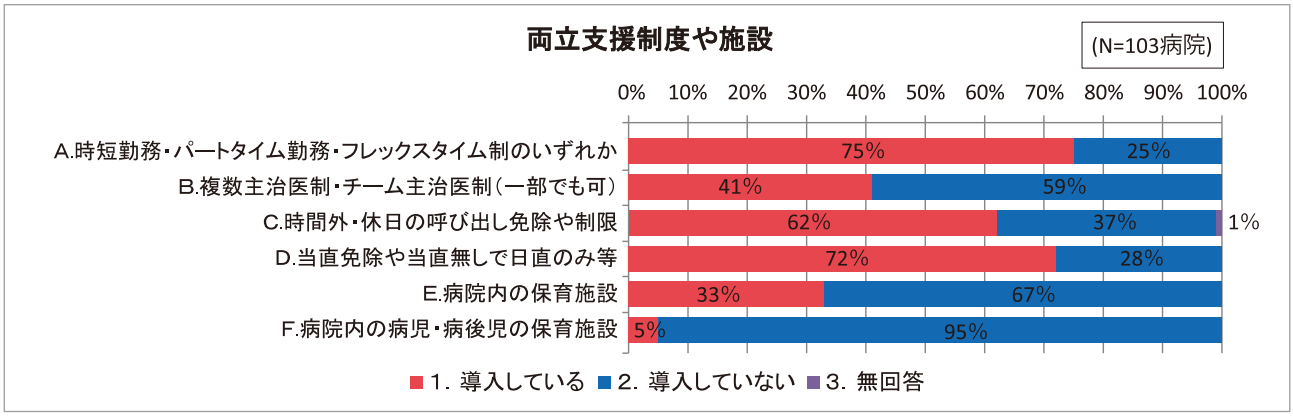

両立支援制度や施設
(N=103病院)
A.時短勤務・パートタイム勤務・フレックスタイム制のいずれか
75%
25%
B.複数主治医制・チーム主治医制（一部でも可）
41%
59%
C.時間外・休日の呼び出し免除や制限
62%
37%
1%
D.当直免除や当直無しで日直のみ等
72%
28%
E.病院内の保育施設
33%
67%
F.病院内の病児・病後児の保育施設
5%
95%
1．導入している
2．導入していない
3．無回答

図4

「働き方改革」を意識した取り組み事例

（複数回答/病院数）

1位.	年次有給休暇取得の促進や時間単位の有給休暇取得制度の導入	32
2位.	会議・委員会・研修等の開始時間の見直しや所要時間短縮などタイムマネジメント意識の醸成	25
3位.	業務分掌の見直しやタスク・シフティングの推進	15
4位.	65歳以上の雇用継続や新規採用、障害者雇用の促進、退職者の再雇用	13
5位.	業務手順の見直し（効率化・システム化）による業務量の削減	9
6位.	時間外勤務の削減・管理	7
7位.	子育て中の職員の支援（柔軟な勤務時間、在宅勤務制度、会議参加の緩和）	4
7位.	当直・宿直のための柔軟な対応（希望日・回数の配慮、翌日は半日や時間短縮勤務の措置、ｱｳﾄｿｰｼﾝｸﾞ等）	4

＜その他の事例＞

- タイムレコーダーによる勤怠管理
- 育児休業取得の促進
- 医師の要望に沿った休暇や勤務時間の調整
- 優秀な人材の獲得と活用
- パートの基本給上昇
- 勤務環境改善の取組（フレックスタイム、早出遅出出勤、ゆう活制度促進）
- 次世代育成支援（求人活動）
- 正規・非正規職員の格差是正
- 短時間正規雇用制度の導入
- 委員会の見直しや削減
- コメディカル部門の２交代制の導入

図5

「女性活躍推進」を意識した支援や取り組み事例

（複数回答/病院数）

1位.	柔軟な勤務体制（勤務時間・日数の調整、ﾌﾚｯｸｽﾀｲﾑ、当直の免除、時間・年次有給休暇取得の促進、ﾃﾚﾜｰｸ）	30
2位.	資格取得へのフォロー、研修会への参加推奨等	14
3位.	保育に係る費用の補助（延長保育、病児・病後児保育、保育手当（2人迄月額2万）支給等）	9
4位.	院内保育施設の設置	5
5位.	手当の支給（分娩立ち合い、産後復職）	2
5位.	女性診療科長の登用	2
5位.	女性リーダー養成	2
5位.	女性活躍応援宣言事業所（佐世保・諫早市）の登録	2

＜その他の事例＞

- 定年後の再雇用や非常勤雇用
- 仕事内容の精査
- 委員会活動の免除
- 入院主治医の制限（受持患者数を少なく）
- 乳がん・子宮がん検診費用の一部補助
- 「子育ての集い」を開催し、子育て経験者が子育て中の職員の相談にのったり助言を行う
- 各種ハラスメントについて防止規定を設け、周知。メンタルヘルスケアを充実。
- 休園時に院内保育施設で一時預かり
- 24時間病児保育の受入
- 出産・子育てに関する制度一覧を配布して周知を図る

図6

図7

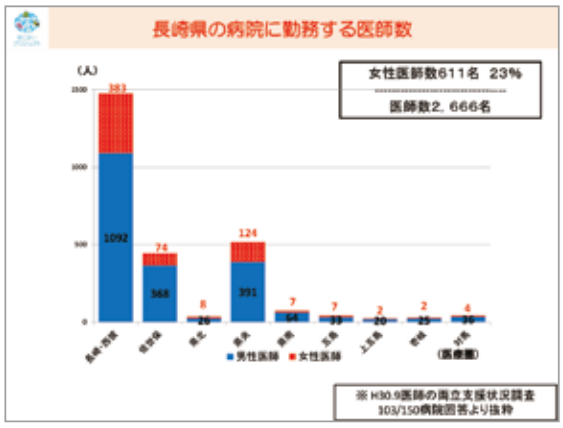


図8

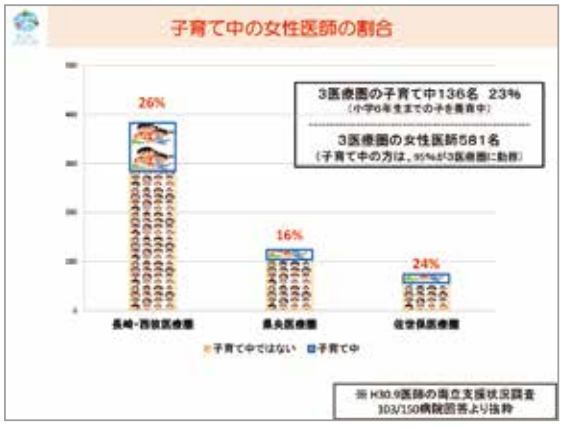


図9

調査の貴重なデータは、長崎県の医療のための有意義な情報として活用しています。昨年度の調査結果は、長崎県の医療勤務環境改善セミナー（平成29年度第2回開催）で発表しました。

3 平成30年度　医師の両立支援状況調査　二次調査

1.調査の目的

「医師の両立支援状況調査」のワークライフバランス施策の考えについての設問で、「病院にとって負担が大きい」と回答した病院の具体的な負担内容を把握し、今後の活動の参考にするため。

2.対象と方法

実 施 月：平成30年11月
調査対象：「ワークライフバランス施策は病院にとって負担が大きい」と回答した長崎県内の15病院
形　　態：療養型3病院、療養型＋一般病床5病院、一般病床（感染・結核含む）7病院
病 床 数：99床以下:6病院、100～199床:6病院、200床以上:3病院
調査方法：メールで回収
質問内容：病院が抱える負担感の具体的内容

3.結果と考察

依頼と回答数（回答率）:依頼15病院　回答10病院（67%）

＜負担が大きいと感じる点（重複あり）＞

・交通が不便である地域での人材確保の費用（3病院）
・常勤医の高齢化による当直代替の医師の確保（2病院）
・産休・育休・育児短時間勤務・夜勤免除者の代替の人材確保:医師・看護師（3病院）
・有給取得率向上のための人員確保:看護師、医師（2病院）
・院内保育所の運営費（3病院）
・院内病児保育設置の費用（1病院）

長崎県内の医師の偏在により、離島・へき地での人材確保や、医師・看護師の産休・育休代替、働き方改革によって求められる有給取得率向上のための人材確保など、人件費に対する負担感が多いようです。費用はかかるが、入職者が増えたという病院もあり、費用対効果のある負担をどう考えるかは、その病院次第かもしれません。

また、離島・へき地での医療の活性化を目指して、ながさき地域医療人材支援センターのさらなる活躍を期待します。

院内保育・院内病児保育も、人材定着につながるものの運営費は高額となるため、負担と感じる結果となっています。これに対しては、院内保育・院内病児保育のある病院への診療報酬等による待遇改善が期待されます。

調査へご協力いただきました病院のみなさま、ありがとうございました。

4.広報活動

1 講　演

2018.01.19（佐賀）　**伊東昌子:**①ダイバーシティ推進に向けた男性の意識·女性の意識（教育研究評議会にて）。②大学におけるダイバーシティ推進～一人ひとりの働きがいを目指して～（全教職員向けFD／SDにて）。佐賀大学ダイバーシティ推進講演会（講演）

2018.02.09（長崎）　**伊東昌子:**小学生·中学生から考えるキャリア形成。長崎県PTA連合会母親委員会講演会（講演）

2018.03.02（東京）　**伊東昌子:**大学のマネジメント観点からの女性活躍促進の在り方。文部科学省科学技術人材育成費補助事業フォーラム「研究力強化に向けた女性研究者の活躍推進」（パネルディスカッション）

2018.05.24（兵庫）　**伊東昌子:**大学におけるダイバーシティ推進。第91回日本整形外科学会（シンポジウム）

2018.06.08（福岡）　**原田直彦、伊東昌子、村上和成、中尾和彦、馬場秀夫、井戸章雄：**特別企画「トップリーダーにきく!老若男女が支え合う理想的な消化器診療体制とは?」。第111回日本消化器病学会九州支部例会（基調講演）

2018.06.30（鹿児島）**南貴子:**第9回男女共同参画講演「ワークライフシナジーを語ろう!～先輩に聞きたいこと、後輩に伝えたいこと～」。第124回日本循環器学会九州地方会（コメンテーター）

2018.07.26（長崎）　**伊東昌子:**大学における研究者のワークスタイルイノベーション。第36回日本骨代謝学会（シンポジウム）

2018.07.30（愛知）　**伊東昌子:**長崎大学病院における医師のワークライフバランス実現に向けて。平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」医学系女性研究者·女性医師の活躍推進のための意見交換会（基調講演）

2018.08.01（長崎）　**伊東昌子:**自分らしく生きたい気持ち、大切にしたい夢を、みんなで支えましょう。平成30年度夢·憧れ·志を育むリケジョ育成プログラム夢セミナー「保護者·教員向けキャリアセミナー」（講演）

2018.08.17（長崎）　**伊東昌子:**長崎県PTA連合会母親委員長との対談「男女共同参画推進ならびにキャリア教育について」

2018.08.26（長崎）　**伊東昌子:**自分らしく生きたい気持ち、大切にしたい夢を、みんなで支えましょう。平成30年度夢·憧れ·志を育むリケジョ育成プログラム夢セミナー「保護者·教員向けキャリアセミナー」（講演）

2018.08.29（長崎）　**伊東昌子:**誰もがイキイキと自分らしく活躍できる職場を始めよう。第48回九州地区大学保健管理研究協議会（講演）

2018.09.14（宮崎）　**伊東昌子:**女性研究者支援　これまでの10年、これからの10年。第10回九州·沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin宮崎（パネルディスカッション）

2018.10.13（東京）　**伊東昌子:**長崎大学におけるダイバーシティ研究環境実現に向けての取組。第16回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（ポスター）

2018.10.15（長崎）　**伊東昌子:**多様性の尊重とキャリア形成について考える。長崎県教育センター研修講座「女性教職員の活躍を目指したキャリアアップ研修講座」（講演）

2018.10.15（福岡）　**伊東昌子:**医師のための働き方見直し～ワークライフバランスとダイバーシティの観点から～。平成30年九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD（基調講演）

2018.11.03（長崎）　**伊東昌子:**医師のための働き方見直し～ワークライフバランスとダイバーシティの観点から～。平成30年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（講演）

2018.11.10（長崎）　**伊東昌子:**女子中高生のキャリア形成のために知って得するお話。平成30年度リケジョ育成プログラム保護者セミナー（講演）

2018.12.08（長崎）　**伊東昌子:**夢はみるものではなく、叶えるもの～チャンスは準備のある人の所にやってくる～。平成30年度夢·憧れ·志を育むリケジョ育成プログラム（講演）

2018.12.15（大阪）　**伊東昌子:**骨密度·骨構造と骨力学特性の加齢変化の性差。脳心血管抗加齢研究会2018 特別企画「多臓器連関における加齢とジェンダー」（講演）

2019.02.04（愛知）　**伊東昌子:**長崎大学ワークスタイルイノベーションの試み。全国ダイバーシティネットワーク組織　東海·北陸ブロック会議キックオフシンポジウム（講演）

2 メディア掲載・出演

·長崎県医師会報　第868号　2018.5掲載
　男女共同参画委員からのお知らせ
　「復職&リフレッシュトレーニングー平成30年度の
　スケジュールが決まりましたー」(伊東昌子)

·長崎県医師会報　第869号　2018.6掲載
　男女共同参画委員からのお知らせ
　「長崎医師保育サポートシステムー運営主体·
　事務局変更のお知らせー」(伊東昌子)

·長崎県医師会報　第870号　2018.7掲載
　男女共同参画委員からのお知らせ
　「長崎医師保育サポートシステムー保育サポーター募集!
　説明会·研修会開催のお知らせー」(伊東昌子)

長崎県医師会報　第868号

長崎県医師会報　第869号

長崎県医師会報　第870号

<長崎医師保育サポートシステム関連>

保育サポーター説明会·研修会　事前告知
「保育サポーター説明会·研修会のお知らせ」
·NBCラジオ　県庁タイムス　2018.8.6～8.10放送
·NBCラジオ　50ニュース　2018.7.24～9.3放送
·NBCテレビ　あっぷる　2018.8.23放送
「保育サポーター募集のお知らせ」
·西日本新聞　県からのお知らせ　2018.8.9掲載
·長崎新聞　県からのお知らせ　2018.8.9掲載

保育サポーター説明会·研修会　事後告知
·KTNテレビ　プライムニュース　2018.9.6放送
　「医師の子育てをサポート」
·NHKテレビ　イブニング長崎　2018.9.6放送
　「病院で働く医師の子育て支援　「保育サポーター」養成研修会」

<復職&リフレッシュトレーニング関連>

·NHKテレビ　イブニング長崎　2018.11.5放送
　「女性医師の復職講習会」
·NHKテレビ　イブニング長崎　2018.11.22放送
　「～子育て中の医師や看護師働きやすく～長崎大学病院「病児保育」整備へ」
　「医師の働く現場は今　働き方の課題」

<その他>

·NBCラジオ With You ～あなたらしく輝いて～　2018.3.13放送
　「女性活躍推進表彰を受けた企業へのインタビュー」(伊東昌子)
·日本女医会誌　復刊第233 号　2018.5.1掲載
　「ブロック懇談会-長崎大学病院の取り組み」(南貴子)
·九州医事新報社　第649号　2018.6.20掲載
　女性医師特集「長崎大学病院が取り組む医師の働き方改革とは」(皮膚科·アレルギー科ワークライフバランス推進員　富村沙織)
·西日本新聞　どうする? 医師の働き方(下)　2018.9.17掲載
　「女性が続けられる職場目指し～育児、復職···サポート進む～」(移植·消化器外科ワークライフバランス推進員　崎村千香)
·長崎県PTA新聞　2018.9.21掲載
　対談「小中学校女子児童生徒の理系進路選択について考える」(伊東昌子)

5.委員会活動

1 センター運営委員会

センター運営委員会（事業計画）

日　時：平成30年5月7日（月）
　　メール会議

センター運営委員会（事業実績）

日　時：平成31年3月8日（金）
　　16:30～17:30
場　所：長崎大学病院
出席者：未定　欠席者:未定
列席者：未定（ワークライフバランス推進員等）

長崎大学病院メディカル･ワークライフバランスセンター
運営委員名簿（平成30年度）

	所　属	役　職	氏　名
1	メディカル・ワークライフバランスセンター	教授	伊東　昌子
2	メディカル・ワークライフバランスセンター	副センター長	南　貴子
3	医療教育開発センター	教授	濵田　久之
4	小児科	助教	白川　利彦
5	産科婦人科	准教授	北島　道夫
6	特殊歯科総合治療部	准教授	田上　直美
7	臨床研究センター	准教授	福島　千鶴
8	薬剤部	教授	佐々木　均
9	看護部	部長	貞方　三枝子
10	総務課	課長	上田　祐介
11	人事企画課	課長	森田　浩司
12	経営管理課	課長	本田　秀史

（敬称略）

2 企画会議

日　時：平成30年5月21日（月）10:00～12:00
場　所：メディカル･ワークライフバランスセンター
出席者4名：南副センター長、クラスペディア吉岡氏、センター事務 三宅、有馬

3 長崎県女性医師等就労支援協議会

日　時：平成31年1月31日（木）
　　14:00～15:30
場　所：長崎県庁舎
出席者:6名　欠席者:2名　列席者:7名

長崎県女性医師等就労支援協議会委員名簿（平成30年度）

	所　属	役　職	氏　名
1	長崎県医師会	常任理事	瀬戸　牧子
2	長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長/教授	伊東　昌子
3	長崎大学病院 医療教育開発センター	センター長/教授	濵田　久之
4	長崎大学医学部医学科 先端医育センター	センター長/教授	安武　亨
5	長崎医療センター	院長	江﨑　宏典
6	佐世保総合医療センター	副院長	早田　宏
7	ながさき女性医師の会	副会長	黒﨑　伸子
8	医療人材対策室	室長	石田　智久

（敬称略）

4 女性医師等キャリア支援連絡協議会

日　時：平成31年1月31日（木）15:30～16:00
場　所：長崎県庁舎
出席者:4名　欠席者:4名　列席者:7名
※幹事大学として、伊東センター長が司会。
　県内の女性医師等支援策について意見交換。
　長崎県女性医師等就労支援協議会の会議体で開催。

6.その他

1 参加·受講

2018.02.06(東京) **伊東昌子:**TOMA特別講演会「ドラッカーに学ぶ実践マネジメント"ドラッカー5つの質問"から始める経営」
2018.02.16(長崎) **伊東昌子:**長崎県人権教育中央研修会「LGBTも生きやすい社会を目指して～知っていますか?多様な性のあり方～」
2018.02.22(東京) **伊東昌子:**株式会社トロワ·クルール主催　セミナー「無意識の偏見とLGBT対応」
2018.02.26(宮崎) **伊東昌子:**宮崎大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)外部評価委員会
2018.03.01(長崎) **伊東昌子:**平成29年日本学術会議九州·沖縄地区会議学術講演会「海の利用と保全への新たな挑戦」(司会)
2018.03.08(長崎) **伊東昌子:**中国領事館主催 三·八国際婦人デー交流会
2018.04.14(東京) **伊東昌子:**国立研究開発法人科学技術振興機構主催シンポジウム「女性研究者と共に創る未来」
2018.05.17(東京) **伊東昌子:**Gender Summit 10 フォローアップ小分科会
2018.06.11(東京) **伊東昌子:**在日フランス商工会議所講演会「企業におけるダイバーシティのメリットーフランスの事例からー」
2018.08.20(長崎) **伊東昌子:**平成30年度長崎市人権問題講演会「ボク、学習障害と生きてます～多様性を大切にする社会～」
2018.08.23(長崎) **伊東昌子:**平成30年度人権·同和教育指導者専門講座「性的マイノリティに対する支援の輪を広げるために」
2018.08.25(長崎) **南貴子:**ながさき女性医師の会主催「先達に学ぶ夏のタベ　日本初の女医　楠本イネに思いを馳せる」
2018.09.02(福岡) **伊東昌子:**キャンパス·セクシュアル·ハラスメント全国ネットワーク第24回全国大会in九州(分科会、シンポジウム)
2018.10.13(東京) **伊東昌子:**第16回男女共同参画学術連絡会
2018.11.02(東京) **南貴子:**全国医学部長病院長会議事務局主催「女性医師等キャリア支援連絡会議全国会議」
2018.11.10(長崎) **南貴子:**日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック別会議
2018.11.20(長崎) **南貴子·三宅ｽｺﾗｽﾀｲﾝ由香:**長崎大学FDセミナーLGBT研修会「セクシュアリティについて学びませんか～多様性が彩るキャンパスを目指して～」
2018.12.01(福岡) **伊東昌子:**日経Wアカデミー「ビジネスの学校 in福岡 ～成功するための秘訣～」
2018.12.05(東京) **伊東昌子:**一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワーク シンポジウム2018「ダイバーシティは必然～Diversity is the Game Changer for Tomorrow～」
2018.12.07(長崎) **三宅ｽｺﾗｽﾀｲﾝ由香·有馬理音:**平成30年度長崎大学市民公開講座「今の時代が求めるダイバーシティマネジメント～男性も輝く、女性も輝く、社会づくり～」
2018.12.12(東京) **伊東昌子:**日経Smart Work 働き方改革Advance ～事例で学ぶ「治療と仕事の両立支援」～
2019.01.24(長崎) **南貴子·三宅ｽｺﾗｽﾀｲﾝ由香·有馬理音:**ながさき女性活躍推進会議事務局主催「ながさき女性活躍推進企業等表彰」と「個を知り、個を活かす組織への挑戦～女性活躍について資生堂を切り口に考える～」
2019.01.25(福岡) **伊東昌子:**全国ダイバーシティネットワーク組織　九州·沖縄ブロック会議
2019.02.07(大阪) **伊東昌子:**全国ダイバーシティネットワーク組織·大阪大学シンポジウム「挑戦する女性が拓くダイバーシティ時代へ」
2019.02.15(長崎) **伊東昌子:**長崎県人権教育中央研修会「ちがいを認め合う社会へ～「知る」「気づく」ことから～」
2019.03.18(東京) **伊東昌子:**経済トップセミナー「『働き方改革』と人生100年時代の企業経営」

2 施設見学

2018.12.07　**南貴子:**佐賀大学病院保育園「キッズパレット」病児保育見学

3 関連機関所属一覧

伊東昌子　センター長

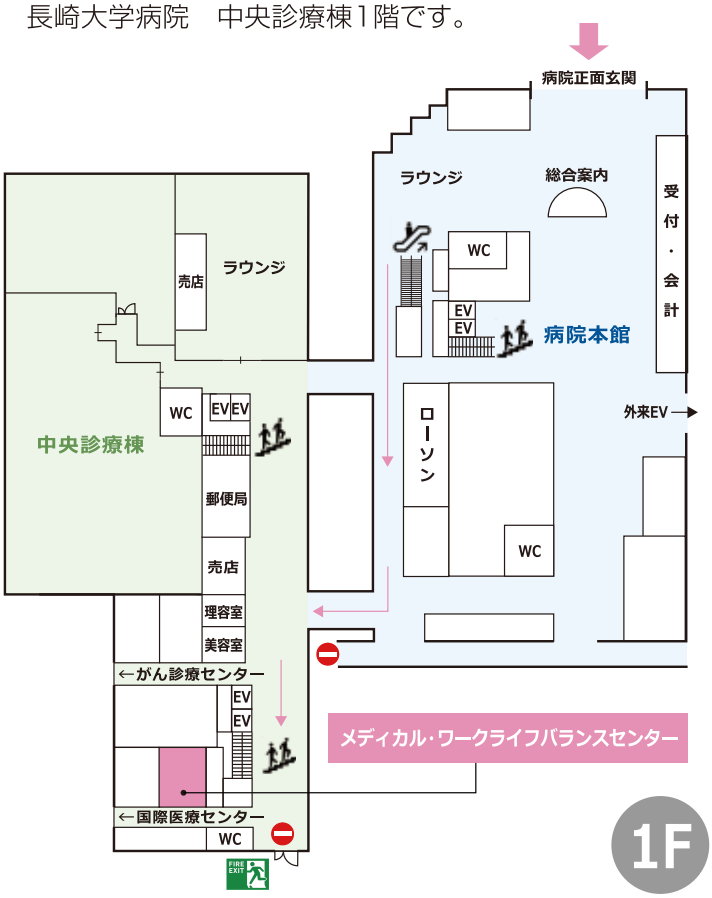
日本骨形態計測学会　評議員(アドバイザー·前理事長)
日本骨粗鬆症学会　評議員
日本学術会議　連携会員
長崎県医師会男女共同参画委員会　委員
長崎県医療審議会　委員(～2018.7.31)
長崎市男女共同参画審議会　委員長
ながさき女性医師の会　監事
日本骨代謝学会　監事
日本性差医学·医療学会　理事
長崎県女性医師等就労支援協議会　委員
長崎大学医師会　理事
長崎県公立大学法人評価委員会　委員
ながさき女性活躍推進フォーラム実行委員会　委員

南貴子　副センター長

平成30年度ダイバーシティ推進センター働き方見直し推進委員会　委員
日本循環器学会九州支部　評議員

メディカル･ワークライフバランスセンターへのアクセス

長崎大学病院　中央診療棟1階です。



平成30年度　あじさいプロジェクト活動報告書
平成31年2月発行

発行　長崎大学病院メディカル･ワークライフバランスセンター
〒852-8501　長崎市坂本1丁目7番1号
電話&FAX　095-819-7979
E-mail info01@nagasaki-ajisai.jp
URL http://nagasaki-ajisai.jp

メンバー

センター長　伊東 昌子
副センター長　南 貴子
センター事務　三宅スコラスタイン 由香
センター事務　有馬 理音

編集協力･印刷
JiHHi design(ジッヒ デザイン)
電話 080-3905-5865

メルマガ配信中!

[Webサイト]　[facebook]　[メルマガ]

NAGASAKI UNIVERSITY HOSPITAL
SINCE 1861